

北久米遺跡

—3次調査地—

2004

松山市教育委員会
財團法人 松山市生涯學習振興財團
埋蔵文化財センター

きた
く
め
北 久 米 遺 跡
3 次 調 査 地



2004

松山市教育委員会
財団法人 松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

序

本報告書は平成15年度に北久米町において開発工事に伴う事前発掘調査の成果をまとめたものです。

北久米遺跡3次調査地が位置する松山平野の南東部には、弥生時代から古代にかけての遺跡が数多く分布しています。当遺跡の周辺においては、国道11号バイパス建設に伴う発掘調査により、弥生時代から古墳時代の集落の存在がみつかりました。また、北西方には古墳時代を中心とした大規模な集落遺跡である福音小学校構内遺跡、南東方には古墳時代から古代にかけての集落遺跡である北久米淨蓮寺遺跡などがあり、当地域における遺跡の全容が明らかになりつつあります。

今回実施された調査では、古墳時代から中世の土坑や溝などの集落関連遺構や、土師器や須恵器、石器などの遺物を確認し、記録にとめることができました。

このような貴重な成果が得られましたのも、関係各位の方々の埋蔵文化財に対する深いご理解とご協力のたまものであり、心から感謝申し上げる次第です。

なお、本書が埋蔵文化財の調査研究の一助となり、ひいては文化財保護、教育文化の向上に寄与できることを願っております。

平成16年3月31日

財団法人 松山市生涯学習振興財團
理事長 中村時広

例　　言

1. 本書は、松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターが、平成15年度に愛媛県農業協同組合連合会から委託を受けて、松山市北久米町754-1、755-1、756-1の各一部で実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 遺物の実測・製図および遺構の製図は、担当調査員の指導のもと、山邊進也、猪野美喜子、金子育代、高尾久子、大西陽子、西本三枝、平岡真美、山下満佐子が行った。
3. 遺構は呼称を略号で記述した。溝：S D、土坑：S K、柱穴：S P、性格不明遺構：S Xとした。
4. 遺構図・遺物図の縮尺は、縮分値をスケール下に記した。
5. 本書に使用した方位はすべて真北である。
6. 本書にかかるる遺物・記録類は、松山市立埋蔵文化財センターが保管・収蔵している。
7. 本書の執筆は、河野史知が執筆し、梅木謙一の協力を得た。
8. 遺物の撮影及び写真図版作成は大西朋子が行った。
9. 編集は河野史知が行った。
10. 製版　写真図版175線
印刷　オフセット印刷
用紙　本　文　マットカラー　110kg
写真図版　マットカラー　135kg
製本　アジロ綴じ

本文目次

第1章 はじめに

1. 調査に至る経緯	1
2. 調査・刊行組織	1

第2章 遺跡の概要

1. 遺跡の立地	2
2. 歴史的環境	3

第3章 調査の概要

1. 調査の経過	7
2. 墓位	8
3. 遺構と遺物	
(1) 1区の調査	15
(2) 2区の調査	15
(3) 3区の調査	16
(4) 4区の調査	36
(5) 5区の調査	37

第4章 調査のまとめ

挿 図 目 次

第1図 松山平野の地形分類図	(S=1:200,000)	2
第2図 調査地周辺の遺跡分布図(1)	(S=1:50,000)	4
第3図 調査地周辺の遺跡分布図(2)	(S=1:3,000)	5
第4図 調査地区割図	(S=1:700)	7
第5図 1区東壁・2区南壁上層図	(S=1:50)	8
第6図 3区東壁・西壁上層図	(S=1:50)	9
第7図 4区東壁・5区西壁土層図	(S=1:50)	11
第8図 道構配図図	(S=1:150)	13
第9図 SP1測量図	(S=1:40)	15
第10図 第IV層出土遺物実測図	(S=1:3)	15
第11図 SK2測量図・出土遺物実測図	(S=1:40・1:3)	16
第12図 SK3測量図・出土遺物実測図	(S=1:40・1:3)	17
第13図 SK5測量図	(S=1:40)	17
第14図 SK6測量図・出土遺物実測図	(S=1:40・1:3)	18
第15図 SK8測量図	(S=1:40)	18
第16図 SK9測量図・出土遺物実測図	(S=1:40・1:3)	19
第17図 SK12測量図・出土遺物実測図(1)	(S=1:40・1:3)	20
第18図 SK12出土遺物実測図(2)	(S=1:3)	21
第19図 SD1測量図・出土遺物実測図	(S=1:80・1:3)	22
第20図 SD2測量図・出土遺物実測図	(S=1:80・1:3)	23
第21図 SD4測量図	(S=1:40)	24
第22図 SK10測量図・出土遺物実測図	(S=1:40・1:3)	24
第23図 SK1測量図	(S=1:40)	24
第24図 SK1出土遺物実測図	(S=1:3)	25
第25図 SK4測量図	(S=1:40)	25
第26図 SK7測量図	(S=1:40)	25
第27図 SK11測量図・出土遺物実測図(1)	(S=1:40・1:3)	26
第28図 SK11出土遺物実測図(2)	(S=1:3・1:2)	27
第29図 SK13測量図	(S=1:40)	27
第30図 SK13出土遺物実測図	(S=1:3)	28
第31図 SK14測量図	(S=1:40)	28
第32図 SK15測量図	(S=1:40)	28
第33図 SD3測量図	(S=1:40)	29
第34図 SX1測量図	(S=1:40)	30
第35図 SX1出土遺物実測図	(S=1:3)	31
第36図 SX2測量図・出土遺物実測図	(S=1:80・1:3)	32

第37図	S X 3測量図・出土遺物実測図	(S=1:40・1:3)	33
第38図	柱穴出土遺物実測図	(S=1:3・1:4)	34
第39図	第IV層出土遺物実測図	(S=1:3・1:4)	35
第40図	S D 5測量図・出土遺物実測図	(S=1:40・1:3)	36
第41図	S D 6測量図	(S=1:40)	36
第42図	S P 5出土遺物実測図	(S=1:1)	36
第43図	S D 7測量図・出土遺物実測図(1)	(S=1:40・1:3)	37
第44図	S D 7出土遺物実測図(2)	(S=1:3・1:2)	38
第45図	S D 8測量図・出土遺物実測図	(S=1:40・1:3・1:2)	38

表 目 次

表 1	溝一覧	40
表 2	土坑一覧	40
表 3	性格不明遺構一覧	41
表 4	2区第IV層出土遺物観察表 (土製品)	41
表 5	3区SK2出土遺物観察表 (土製品)	41
表 6	3区SK3出土遺物観察表 (土製品)	42
表 7	3区SK6出土遺物観察表 (土製品)	42
表 8	3区SK9出土遺物観察表 (土製品)	42
表 9	3区SK12出土遺物観察表 (土製品)	42
表10	3区SD1出土遺物観察表 (土製品)	43
表11	3区SD2出土遺物観察表 (土製品)	43
表12	3区SK10出土遺物観察表 (土製品)	43
表13	3区SK1出土遺物観察表 (土製品)	43
表14	3区SK11出土遺物観察表 (土製品)	43
表15	3区SK11出土遺物観察表 (鉄製品)	44
表16	3区SK13出土遺物観察表 (土製品)	44
表17	3区SX1出土遺物観察表 (土製品)	44
表18	3区SX2出土遺物観察表 (土製品)	45
表19	3区SX3出土遺物観察表 (土製品)	45
表20	3区柱穴出土遺物観察表 (土製品)	45
表21	3区第IV層出土遺物観察表 (土製品)	46
表22	4区SD5出土遺物観察表 (土製品)	47
表23	4区SP5出土遺物観察表 (石製品)	47
表24	5区SD7出土遺物観察表 (土製品)	47
表25	5区SD7出土遺物観察表 (鉄製品)	48
表26	5区SD8出土遺物観察表 (土製品)	48
表27	5区SD8出土遺物観察表 (鉄製品)	48

写真図版目次

- 図版 1. 1 調査前風景（南東より）
2 調査地全景（西より）
- 図版 2. 1 1区検出状況（東より）
2 1区完掘状況（南より）
- 図版 3. 1 2区検出状況（北より）
2 2区完掘状況（北より）
- 図版 4. 1 3区表土掘削状況（北東より）
2 3区調査風景（南東より）
- 図版 5. 1 3区西壁土層（東より）
2 3区造構検出状況（南より）
- 図版 6. 1 3区SK13ベルト土層・遺物出土状況（南より）
2 3区SD1・SX2ベルト土層（西より）
- 図版 7. 1 3区SD1遺物出土状況（北より）
2 3区SD1南西端ベルト土層（北東より）
- 図版 8. 1 3区造構完掘状況（北西より）
- 図版 9. 1 4区造構検出状況（南より）
2 4区造構完掘状況（北より）
- 図版 10. 1 5区造構検出状況（北東より）
2 5区SD7遺物出土状況（北より）
- 図版 11. 1 5区造構完掘状況（北より）
- 図版 12. 1 3区：SK3(7)、SK9(12)、SK12(15・16)、SD1(21)、SK10(30)、
SK1(32)出土遺物
- 図版 13. 1 3区：SK11(40・41)、SX1(51・53)、SX2(54)、柱穴(64)出土遺物
- 図版 14. 1 3区：柱穴(66)、第IV層(83)出土遺物
2 4区：SP5出土遺物
3 5区：SD7(91・94・96)、SD8(98)出土遺物

第1章 はじめに

1. 調査に至る経緯

2003（平成15）年7月28日、愛媛県農業協同組合連合会より、松山市北久米町754-1・755-1・756-1における給油所及び店舗建設にあたり、当該地の埋蔵文化財確認願いが松山市教育委員会文化財課（以下、文化財課）に提出された。

当該地は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「No.124 北久米遺物包含地」内に所在し、これまでは周辺では、数多くの発掘調査が実施されており、周知の遺跡地帯として知られている。北西には弥生時代から古墳時代の集落関連遺構を主体とした筋違遺跡や古墳時代を中心とする大集落跡の福音小学校構内遺跡、南東には古墳時代から古代までの集落跡を検出した北久米淨蓮寺遺跡などがあり、当該地周辺は弥生時代から古代にかけての集落地帯であったことが明らかとなっている。

これらのことから、当該地における埋蔵文化財の有無と、さらには遺跡の範囲や性格を確認するため、2003（平成15）年8月20日から21日にかけて文化財課は試掘調査を実施した。その結果、地表下100～120cmから弥生土器・土師器・須恵器片を包含する弥生時代から中世にかけての遺物包含層を検出し、遺物包含層の下層から土坑状遺構や柱穴を確認した。

これらの結果を受け、当該地における遺跡の取り扱いについて文化財課の指導のもと、財団法人松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター（以下、埋文センター）と申請者は協議を重ね、開発工事によって失われる遺跡に対し、記録保存のため発掘調査を実施することとなった。発掘調査は、調査地及び周辺地域における古墳時代から中世までの集落の広がりや集落構造解明を目的とし、埋文センターが主体となり、申請者の協力のもと2003（平成15）年11月4日に開始した。

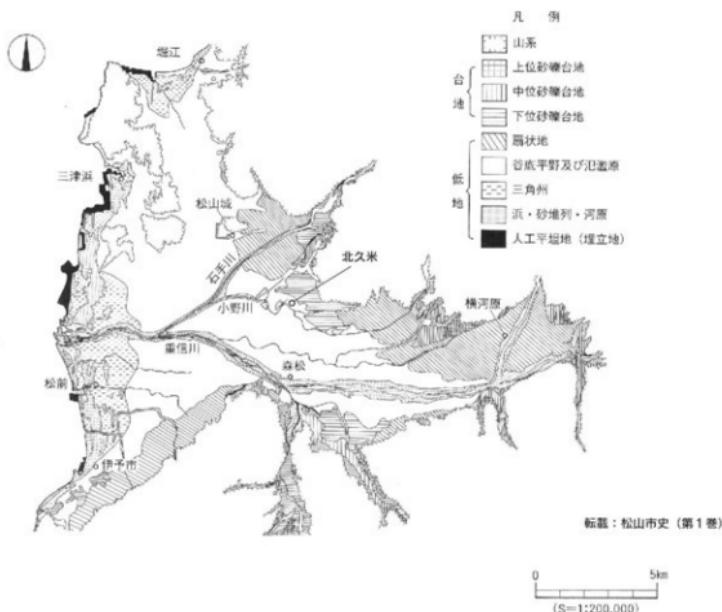
2. 調査・刊行組織（平成16年3月31日現在）

松山市教育委員会	教育長	中矢陽三
事務局	長	武井正浩
	企画官	遠藤宗敏
	企画官	石丸修
文化財課	長	八木方人
	主任幹事	家久則雄
	副主幹	田城武志
	副主幹	重松佳久
財団法人松山市生涯学習振興財團	理事長	中村時広
事務局	長	三宅泰生
事務局次長	菅嘉見	
埋蔵文化財センター	所長	杉田久憲
	専門監査係長	高木昌陽
	次長兼調査係長	西尾幸則
	副主幹兼管理係長	岸本照修
	調査員	河野史知

第2章 遺跡の概要

1. 遺跡の立地

松山平野は、愛媛県のはば中央部に位置し、伊予灘と斎灘に面し、南東部には石鎚山系、北部には高綱山系が聳える。平野は、高綱山に源を発した河川により形成された沖積平野である。この平野南東部において西流する小野川、その下流に分離独立丘陵「東山」がある。小野川を挟んだ東側対岸に星岡丘陵、南側対岸には天山丘陵が所在し、この3つの丘陵を俗に「伊予三山」と呼んでいる。この丘陵群に至る微高地の南西端に当遺跡は立地している。弥生時代より居住地及び耕作地として栄えてきたところである。東には古代の遺跡として知られる来住・久米の遺跡群がある。



第1図 松山平野の地形分類図

2. 歴史的環境（第2図）

当遺跡周辺には、数多くの遺跡が立地している。以下、これらの遺跡について時代別に記述する。

旧石器時代

東山鳩ヶ森古墳の調査よりサスカイト製のナイフ形石器1点、天山天王が森遺跡より瑠璃賀安山岩製のナイフ形石器1点、釜ノ口遺跡よりチャート製のナイフ形石器1点と尖頭器1点が出土している。いずれも遺構にともなったものでない。

縄文時代

縄文時代は、この地域では後・晚期に限られ、来住台地上に立地する久米深田森元遺跡の土壌より縄文後期の土器片が多数出土しており、数少ないこの時期の一括資料として貴重なものである。

晩期の資料には、南久米片廻り遺跡2次調査地から出土した土器群があげられる。朱塗りの壺と刻印凸帯を有する深鉢が出土している。

弥生時代

来住台地及びその周辺地域では、集落として弥生時代の人々の痕跡を認めることができる。久米深田Ⅲ遺跡では、中期の竪穴式住居址や上墳墓などが検出されている。また、来住庵寺15次調査より良好な一括資料が出土している。後期では福音小学校構内遺跡から、壺棺、溝、区画溝、上墳墓が検出されており、集落の様相が明らかとなってきている。

古墳時代

星岡、東山をはじめとする独立丘陵には、6世紀から7世紀中葉にいたる円墳を中心とする小規模な古墳が多数分布する群集墳地帯である。集落跡は福音寺地区から北久米淨蓮寺地区全体の広域に認められる。福音小学校構内遺跡では竪穴式住居址と掘立柱建物址が100棟あまり検出されている。北久米淨蓮寺遺跡3次調査においては初期須恵器の甕が出土したのをはじめとして、5世紀前半から7世紀中葉にいたる竪穴式住居址や掘立柱建物、区画溝が検出されている。また、両遺跡の南に隣接する国道11号線の建設に先だって行われた調査においては、福音寺遺跡筋連地区、星岡遺跡北下地区をはじめとして、古墳時代の遺構・遺物が多く出土している。

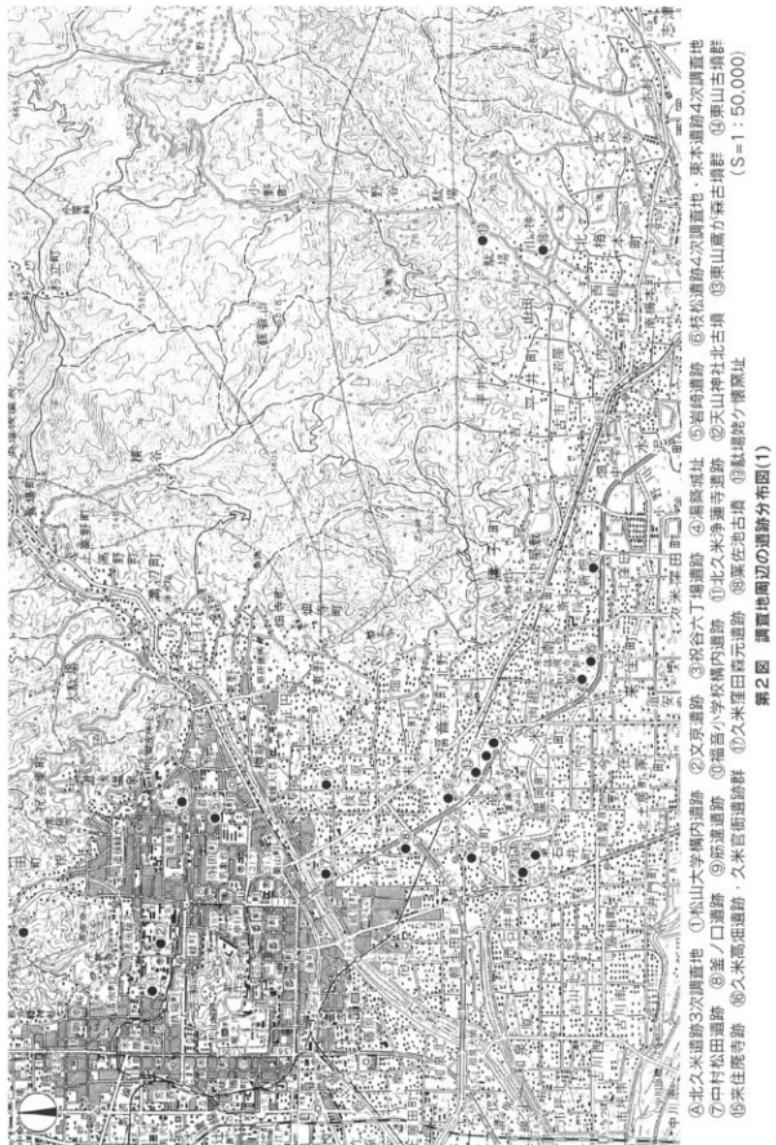
古代

国指定史跡として知られる来住庵寺をはじめとして、官衙関連遺構を多数検出している久米高畠遺跡があり、久米高畠遺跡は調査事例が50次を越え、寺院・官衙施設の構造も次第に解明されつつある。

北久米淨蓮寺遺跡3次調査では、土坑や区画性をもつ溝が検出されている。

中～近世

来住庵寺15次調査において確認された土墳墓には17世紀前半の肥前系陶器が副葬されていた。天山と星岡等の独立丘陵は南北朝の昔、南朝が北朝を迎へ戦った古戦場跡である。



第2図 溝置地周辺の遺跡分布図(1)



①筋違C遺跡 ②筋違D遺跡 ③筋違E遺跡 ④筋違F遺跡 ⑤筋違G遺跡 ⑥筋違H遺跡 ⑦筋違I遺跡
 ⑧筋違K遺跡 ⑨筋違L遺跡 ⑩筋違M遺跡 ⑪筋違N遺跡 ⑫筋違O遺跡 ⑬筋違P遺跡 ⑭福音寺遺跡
 (筋違A・B区) ⑮福音小学校構内道路 ⑯乃万の裏遺跡2次調査地 ⑰量ノ岡道路 (⑰-A: 旗立地区、
 ⑰-B: 北下地区) ⑱北久米遺跡 (常振地区) ⑲北久米常振道路 ⑳北久米道路2次調査地 ㉑北久米
 通跡3次調査地

第3図 調査地周辺の遺跡分布図(2)

【文献】

- 宮崎泰好 1989 「北久米常坂遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅱ』松山市教育委員会
- 梅木謙一編 1992 『永住・久米地区の遺跡』(財) 松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
- 橋本雄一編 1994 『北久米浮蓮寺遺跡－3次調査地－』松山市教育委員会、(財) 松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
- 梅木謙一・武正良浩 1995 『福音小学校構内遺跡－弥生時代編－』松山市教育委員会、(財) 松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
- 梅木謙一編 1996 『福音寺地区の遺跡』松山市教育委員会、(財) 松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
- 河野史知編 1998 『福音寺地区の遺跡Ⅱ』松山市教育委員会、(財) 松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
- 山之内志郎編 2001 『福音寺地区の遺跡Ⅲ』松山市教育委員会、(財) 松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
- 武正良浩 2003 『福音小学校構内遺跡Ⅱ』松山市教育委員会、(財) 松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

第3章 調査の概要

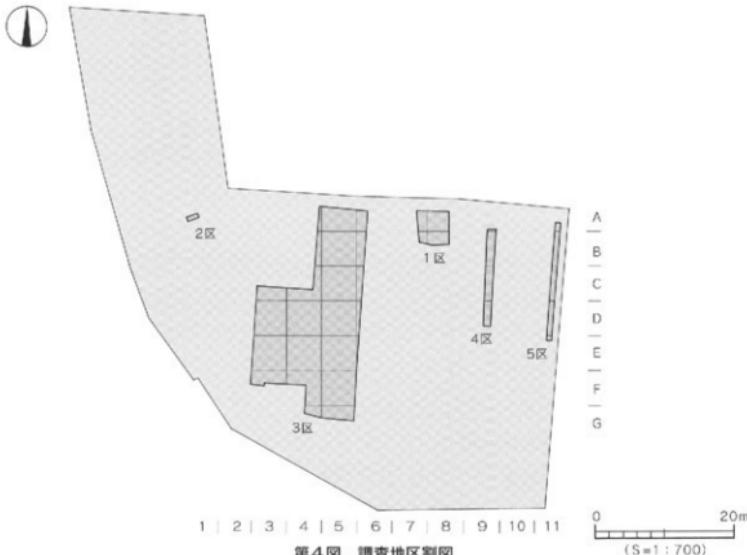
1. 調査の経過

北久米遺跡3次調査地の調査地、調査面積等は以下の通りである。

調査地 松山市北久米町754-1、755-1、756-1の各一部
調査期間 2003（平成15）年11月4日～同年12月25日
調査面積 2,806m²のうち443.83m²
調査委託 愛媛県農業協同組合連合会

発掘調査は平成15年11月4日から開始した。

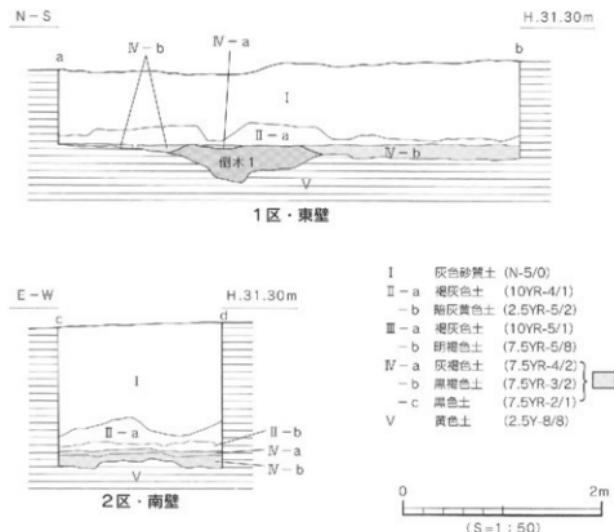
平成15年11月4日、人員を配して1・2区の壁・床面の精査を開始する。11月5日、1・2区の遺構検出状況の写真撮影を行い、遺構の掘り下げ、測量を開始する。11月7日、2区の遺構完掘状況の写真撮影を行い2区の調査を終了する。11月12日、1区の遺構完掘状況の写真撮影を行い1区の調査を終了する。11月13日、3区の壁・床面の精査を開始する。11月18日、3区の遺構検出状況の写真撮影を行い、遺構の掘り下げ・測量を開始する。12月19日、3区の遺構の掘り下げ・測量を終了する。12月22日、重機にて4・5区を掘削する。壁・床面の精査を行い、遺構検出状況の写真撮影を行い、遺構の掘り下げ・測量を開始する。12月24日、4・5区の遺構の掘り下げ・測量を終了する。12月25日、1・3・4・5区の全体清掃を行い、遺構完掘状況の写真撮影を行う。発掘機材を撤去し、本日にて野外調査を終了する。



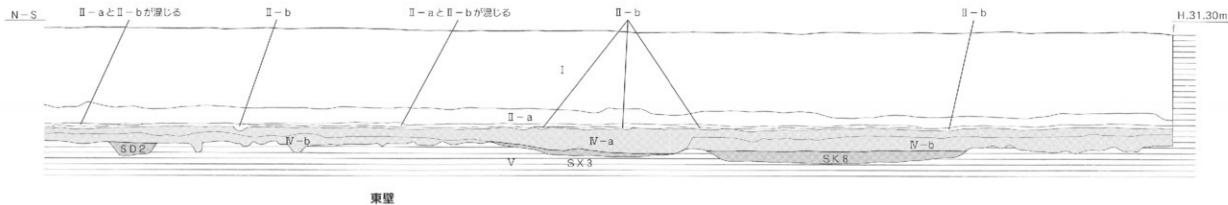
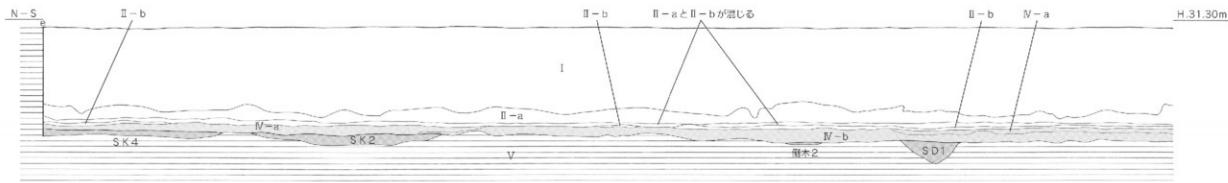
2. 層位 (第5~7図)

調査地は松山平野南東部、微高地上の標高約31mに立地し、調査以前は造成地であった。基本層序は、第I層灰色砂質土、第II層褐色土～暗灰黄色土、第III層褐色土～明褐色土、第IV層灰褐色土～黒色土、第V層黄色土である。なお、旧地形は北東より南西に緩傾斜している。

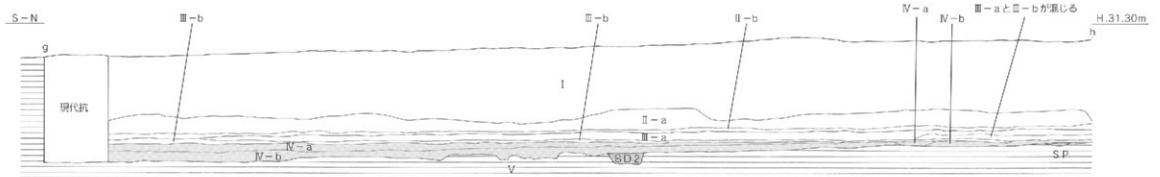
- 第I層** 現代の造成土で、厚さ41~118cmの堆積を測る。
- 第II層-a** 旧耕作土で、厚さ2~29cmを測る。
b 旧耕作土下の床上で、ほぼ全域に厚さ1~9cmの堆積を測る。
- 第III層-a** 旧々耕作土で、厚さ4~16cmの堆積を測る。
b 旧々耕作土下の床上で、厚さ1~7cmの堆積を測る。
- 第IV層-a** 3区全域に堆積し、中世の遺物を包含する。厚さ2~55cmを測る。
b 3区北側を除くほぼ全域に堆積し、古墳時代の土師器・須恵器を包含する。厚さ2~48cmの堆積を測る。
c 4区の北側のみに堆積し、弥生土器を包含する。厚さ4~34cmを測る。
- 第V層** 地山であり、この層の上面において適構を検出した。



第5図 1区東壁・2区南壁土層図

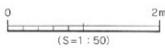


東壁

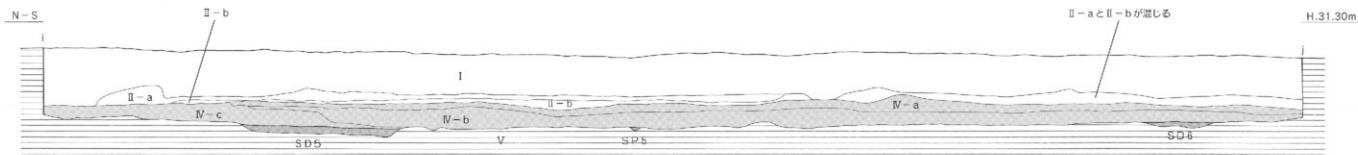


西壁

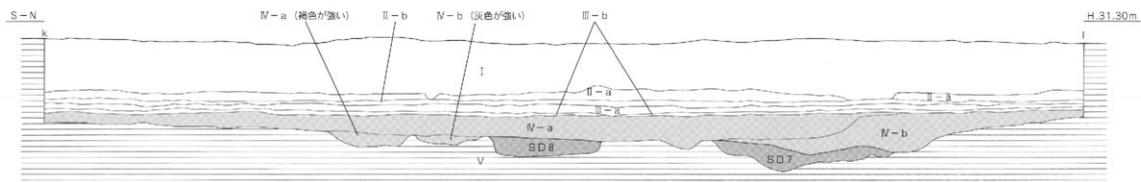
- I 灰色砂質土 (N-5/0)
- II - a 都邑色土 (10YR-4/1)
- b 鹿児島色土 (2.5YR-5/2)
- III - a 地区色土 (10YR-5/1)
- b 明褐色土 (7.5YR-5/8)
- IV - a 汗褐色土 (7.5YR-4/2)
- b 黑褐色土 (7.5YR-3/2)
- c 黑色土 (7.5YR-2/1)
- V 黄色土 (2.5Y-8/8)



第6図 3区東壁・西壁土層図



4区東壁



5区西壁

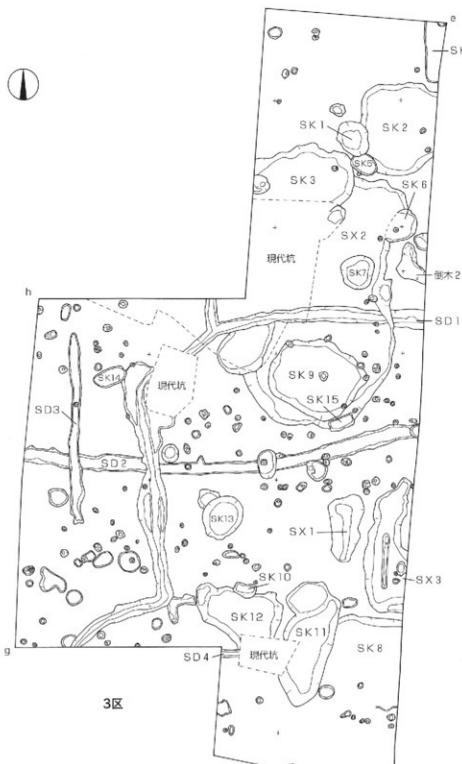
I	灰色砂質土 (N-5/0)
II-a	褐紅色土 (10YR-4/1)
-b	清紅褐色土 (2.5YR-5/2)
III-a	褐紅色土 (10YR-5/1)
-b	羽根色土 (7.5YR-5/8)
IV-a	灰褐色土 (7.5YR-4/2)
-b	黑褐色土 (7.5YR-3/2)
-c	黑色土 (7.5YR-2/1)
V	黃色土 (2.5Y-8/8)



第7図 4区東壁・5区西壁土層図



2区



第7図 4区東壁・5区西壁土層図

A

B

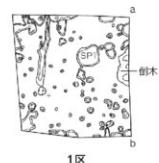
C

D

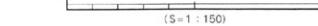
E

F

G



1区



5区



4区

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11

3. 遺構と遺物

本調査では、古墳時代・中世の遺構や遺物を検出した。遺構には、土坑15基、溝8条、柱穴69基、倒木痕2基、性格不明遺構3基がある。遺物は、弥生土器・須恵器・土師器・瓦器・石器が出土した。

[1] 1区の調査

第V層上面にて柱穴12基、倒木痕1基を検出した。

(1) 古墳時代

1) 柱穴

S P 1 (第9図)

調査区北東部のA・8区に位置する。平面形態は不整梢円形で断面形態は皿状を呈する。規模は東西0.89m、南北0.72m、深さ6cmを測る。埋土は黒褐色土である。遺物は土師器の小片が僅かに出土する。

時期：時期決定しうる遺物が乏しく、埋土から古墳時代としか判らない。

(2) 時代不詳

1) 倒木痕

倒木1

調査区東側のA・8区に位置し、東側は調査区外に延びるため全容は不明であるが、平面形態は不整梢円形を呈するものと推測する。断面形態は深鉢状を呈する。埋土は外側が暗褐色土～黒褐色土、内側が黒色粘質土となる。遺物の出土はない。

[2] 2区の調査

第V層上面にて柱穴1基と浅い掘り込み1基検出した。

(1) 古墳時代

1) 柱穴

S P 2

調査区西側のA・1区に位置し、南西部は調査区外に延びる。平面形態は梢円形、断面形態は皿状を呈する。規模は東西0.38m、南北0.47m、深さ8cmを測る。埋土は黒褐色土である。遺物は土師器の小片が僅かに出土する。

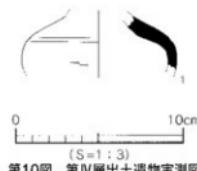
時期：時期決定しうる遺物が乏しく、埋土から古墳時代としか判らない。

第IV層出土遺物 (第10図)

1は脛の脚部である。上脚部に凹線が1条巡る。



第9図 S P 1測量図



第10図 第IV層出土遺物実測図

〔3〕3区の調査

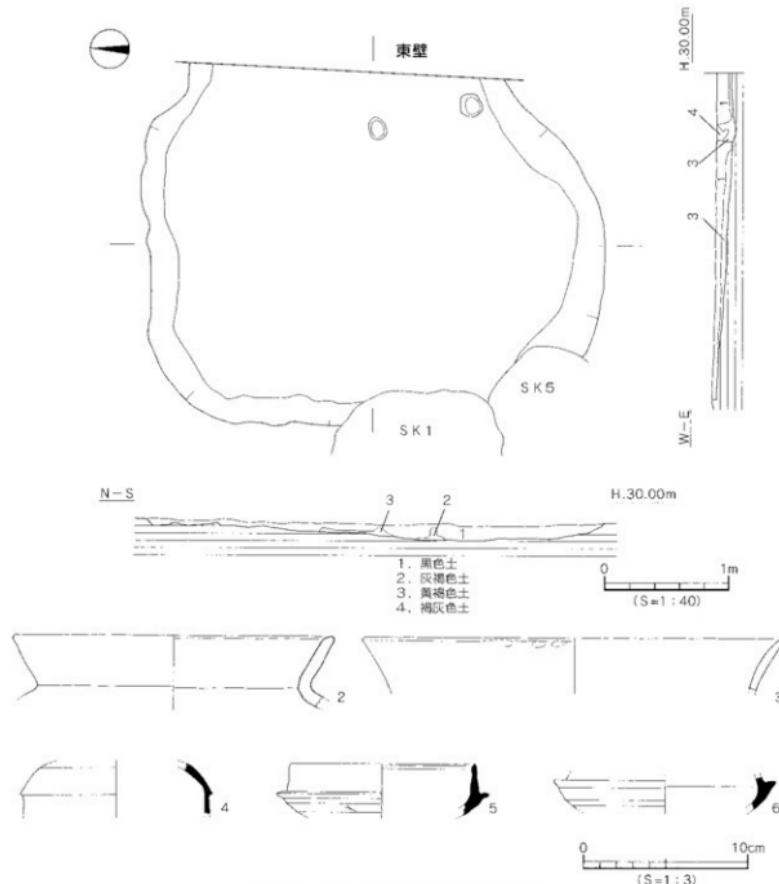
第V層上面にて土坑15基、溝4条、柱穴53基、倒木痕1基、性格不明遺構3基を検出した。

(1) 古墳時代

1) 土坑

SK2 (第11図)

調査区北側のA～B・5～6区に位置し、SK1・5に切られる。東側が調査区外に延びるため全容は不明であるが、平面形態は不整梢円形を呈するものと推測する。断面形態は皿状を呈し、基底面は平坦である。規模は東西2.9m以上、南北3.68m、深さ13cmを測る。埋土は黒色土である。遺物は土器片・須恵器片が出上する。



第11図 SK2測量図・出土遺物実測図

出土遺物（第11図）

2・3は甕の口縁部である。2は「く」字状の口縁部。3は外反する口縁部に端面は平らな面をなす。4は坏蓋である。丸みをもつ天井部と口縁部の境に稜をもち、口縁部は垂下する。5・6は坏身である。5は受部に凹みをもち、口縁端部に段を有する。6は受部がやや凹み、立ち上がりは内傾する。

時期：出土した遺物の特徴から6世紀初頭とする。

SK3（第12図）

調査区北側のB・4～5区に位置する。SK2を切り、SK5・現代坑に切られ、全容は不明であるが、平面形態は橢円形を呈するものと推測する。断面形態は皿状を呈し、基底面はほぼ平坦である。規模は東西3.72m以上、南北1.92m以上、深さ12cmを測る。埋土は黒色土である。遺物は上飾器・須恵器片が僅かに出土する。

出土遺物（第12図、図版12）

7は坏蓋である。天井部と口縁部の境に緩やかな稜をなす。8は坏身である。外上方にのひる受部に、内傾する立ち上がりをもつ。
時期：出土した遺物の特徴から6世紀中頃とする。

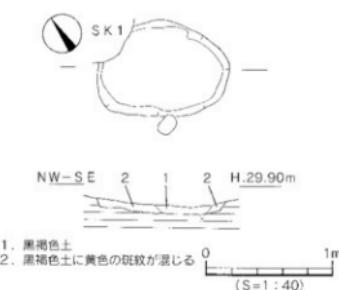


第12図 SK3測量図・出土遺物実測図

SK5（第13図）

調査区北側のB・5区に位置し、SK2・3を切り、SK1に切られる。平面形態は橢円形、断面形態は皿状を呈し、基底面はほぼ平坦である。規模は東西1.05m、南北0.79m、深さ7cmを測る。埋土は黒褐色土である。遺物は上飾器の小片が僅かに出土する。

時期：時期決定しうる遺物が乏しく、古墳時代としか判らない。



第13図 SK5測量図

SK6 (第14図)

調査区北側のB～C・5～6区に位置し、西側をSX2に切られたため全容は不明であるが、平面形態は楕円形を呈するものと推測する。断面形態はレンズ状を呈し、基底面はほぼ平坦である。規模は東西1.05m以上、南北1.45m、深さ16cmを測る。埋土は黒色土である。遺物は須恵器片が僅かに出土する。

出土遺物 (第14図)

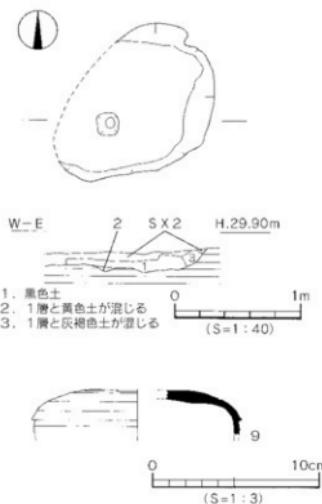
9は坏蓋である。平らな天井部は、口縁部との境に稜をもち、口縁部は垂下する。

時期：出土した遺物の特徴から6世紀前半とする。

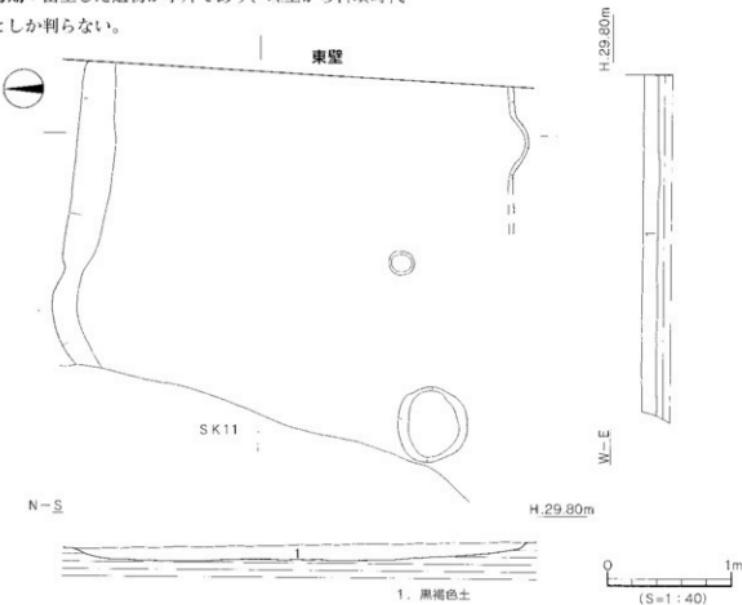
SK8 (第15図)

調査区南側のF・5区に位置し、SK11に切られる。平面形態は楕丸形を呈するものと推測する。断面形態は皿状を呈し、基底面は平坦である。規模は東西2.80m以上、南北3.62m、深さ12cmを測る。埋土は黒褐色土である。遺物は土師器・須恵器の小片が僅かに出土する。

時期：出土した遺物が小片であり、埋土から古墳時代としか判らない。



第14図 SK6測量図・出土遺物実測図



第15図 SK8測量図

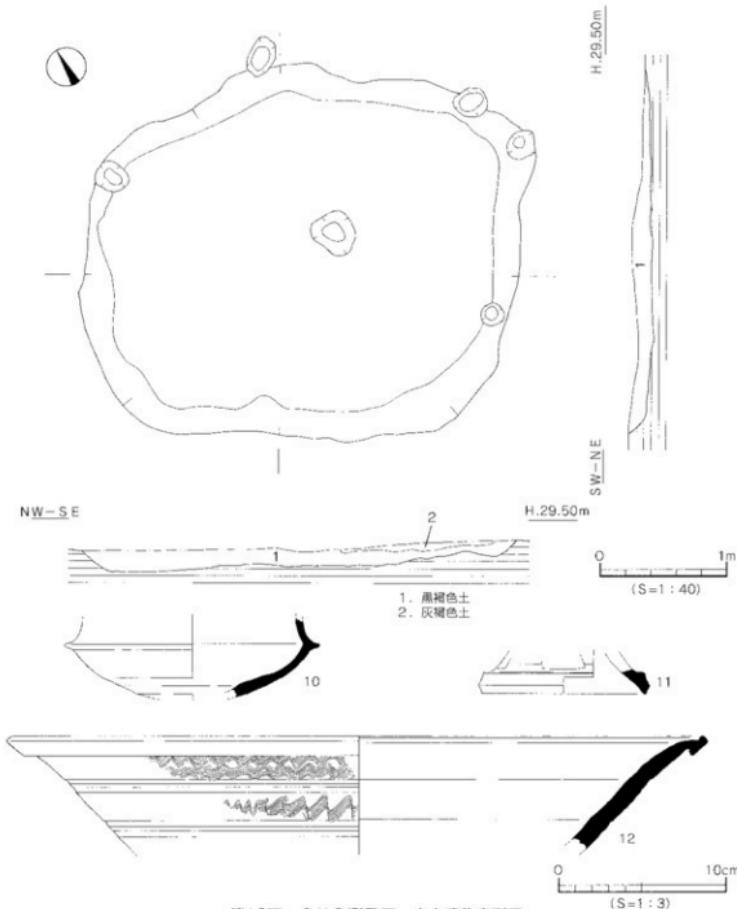
SK9 (第16図)

調査区中央部のC～D・4～5区に位置し、S×2の床面にて検出する。平面形態は円丸方形、断面形態は皿状を呈し、基底面は平坦である。規模は東西3.5m、南北3.0m、深さ17cmを測る。埋土は黒褐色土である。遺物は土師器・須恵器片が出土する。

出土遺物 (第16図、図版12)

10は壺身である。外方にのびる受部に、立ち上がりが内傾する。11は高壺の脚根部で、台形状に肥厚される。12は壺である。口縁部外面に2条の凹線とその上に波状文が2段施される。

時期：出土した遺物の特徴から6世紀中頃とする。



第16図 SK9測量図・出土遺物実測図

SK12 (第17図)

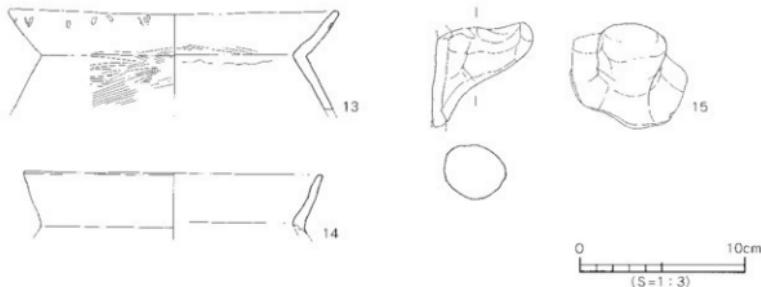
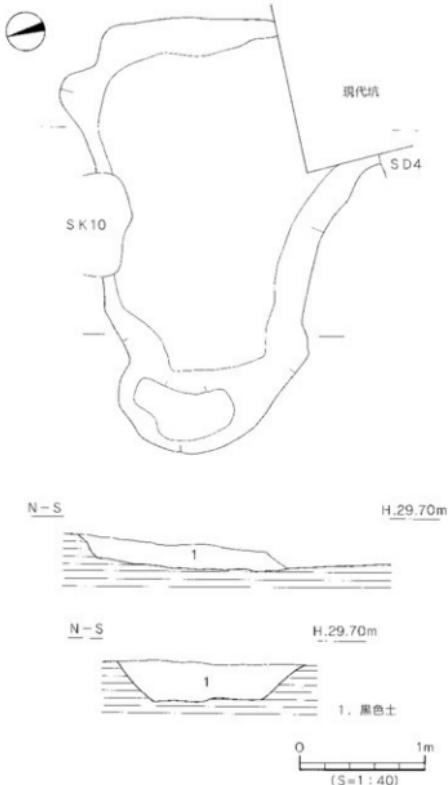
調査区南側のE～F・4～5区に位置し、SK10・現代坑に切られ全容は不明であるが、平面形態は不整橢円形を呈するものと推測する。断面形態は逆台形状を呈し、基底面は緩やかに凹む。規模は東西3.56m、南北1.64m以上、深さ34cmを測る。埋土は黒色土である。遺物は土師器の壺、須恵器の壺蓋・壺身片が出土する。

出土遺物 (第17・18図、図版12)

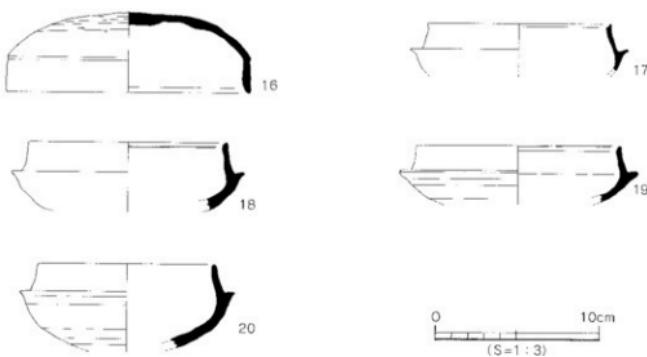
13・14は壺である。13は「く」字状の口縁部の外面上部に不規則な刺突文が施される。14は外傾する口縁部の端部は丸くおさまる。15は壺の把手で、外方向にのびる。16は壺蓋である。やや丸みをもつ天井部と境に稜をもち、口縁部は垂下する。17～20は壺身である。

17は受部は外上方にのび、口縁端部に段を有する。18は口縁端部内面に沈線が巡る。19は口縁端部は内傾する面をなす。20は内面の底部にヘラ記号状の線がみられる。

時期：出土した遺物の特徴から6世紀前半とする。



第17図 SK12測量図・出土遺物実測図(1)



第18図 S K 12出土遺物実測図(2)

2) 溝

SD 1 (第19図)

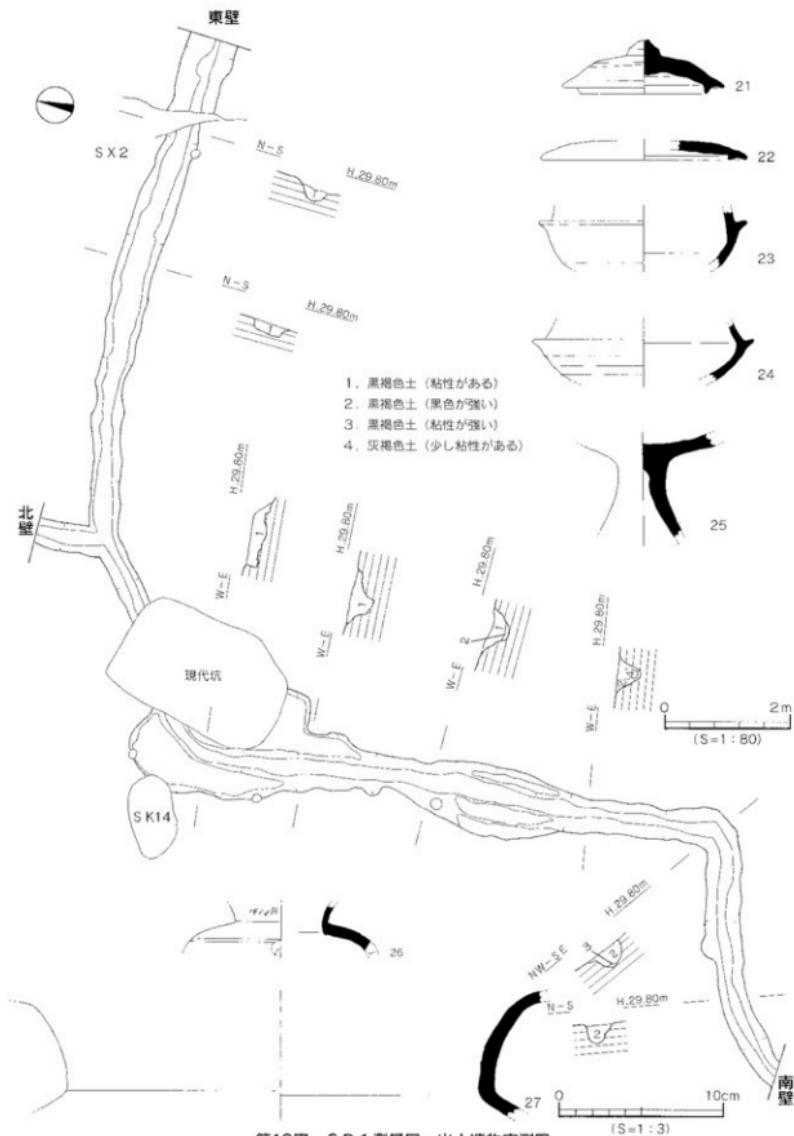
調査区中央部東壁のC・6区から東西方向に直線的に延び、C・4区にて屈曲すると同時に、北方に分岐する。さらにD・3区～E・4区間は南北方向に直線的に延び、E・4区で東西方向に屈曲し、湾曲しながら調査区外に延びる。D・3～4区とE・3～4区の2ヶ所では溝の内側に中段の張り出しをもつ。断面形態は逆台形状を呈する。規模は横出長22.4m、上場幅0.37～1.65m、深さ7～42cmを測る。溝床は北東から南西に21.7cmの比高差を測る。埋土は黒褐色土の單一層の堆積である。遺物は基底面より浮いた状態で、土師器の高环、須恵器の环蓋・环身・壺・甌が出土する。

出土遺物 (第19図、図版12)

21・22は环蓋である。21は天井部につまみを有し、口縁部内側のかえりが接地する。22は低く平らな天井部に、口縁部端内側のかえりが接地する。23・24は环身である。23は外上方にのびる受部は凹む。24は外上方にのびる受部は緩やかに凹み、立ち上がりは内傾する。25は高环で、外傾して下がる脚部。26は甌である。上胴部に円孔がみられ、肩部に凹線が1条巡る。27は甌の口縁部である。緩やかに外反する頸部に大きく外反する口縁部をもつ。

時期：出土した遺物の特徴から7世紀前半とする。

調査の概要



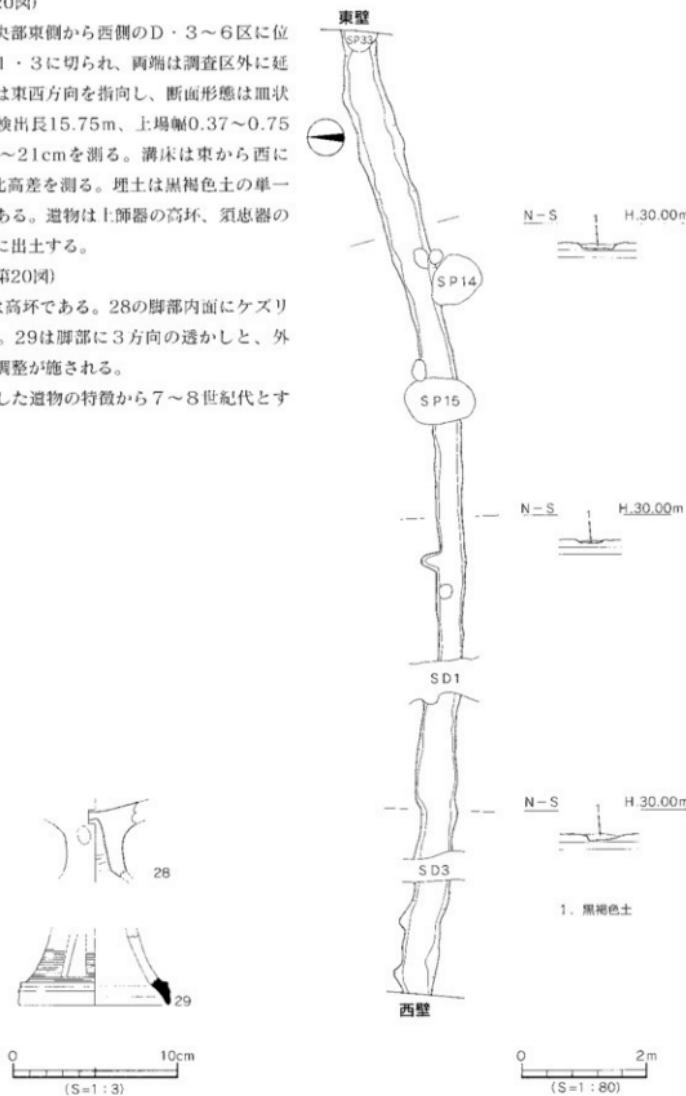
SD2 (第20図)

調査区中央部東側から西側のD・3～6区に位置し、SD1・3に切られ、両端は調査区外に延びる。主軸は東西方向を指向し、断面形態は皿状を呈する。検出長15.75m、上場幅0.37～0.75m、深さ2～21cmを測る。溝床は東から西に16.8cmの比高差を測る。埋土は黒褐色土の單一層の堆積である。遺物は土師器の高杯、須恵器の高环が僅かに出土する。

出土遺物 (第20図)

28・29は高环である。28の脚部内面にケズリがみられる。29は脚部に3方向の透かしと、外面にカキ目調整が施される。

時期：出土した遺物の特徴から7～8世紀代とする。



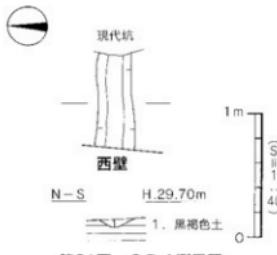
第20図 SD2測量図・出土遺物実測図

調査の概要

S D 4 (第21図)

調査区南側のF・4区に位置し、東側は現代坑に切られ、西側は調査区外に延びる。主軸は東西方向を指向し、断面形態はレンズ状を呈する。検出長0.76m、上場幅0.26~0.32m、深さ4~7cmを測る。埋土は黒褐色土の單一層の堆積である。遺物は土師器の小片が僅かに出土する。

時期：時期決定しうる遺物に乏しく、埋土から古墳時代としか判らない。



第21図 S D 4測量図

(2) 古代

1) 土坑

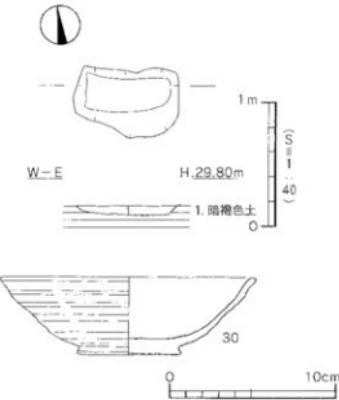
S K 10 (第22図)

調査区南側のE・4区に位置し、S K 12を切る。平面形態は隅丸方形、断面形態は皿状を呈し、基底面はほぼ平坦で、規模は東西0.85m、南北0.48m、深さ15cmを測る。埋土は暗褐色土である。遺物は土師器・須恵器の小片が僅かに出土する。

出土遺物 (第22図、図版12)

30は壺である。円盤高台の底部に回転糸切り痕がみられる。

時期：出土した遺物の特徴から古代末とする。



第22図 S K 10測量図・出土遺物実測図

(3) 中世

1) 土坑

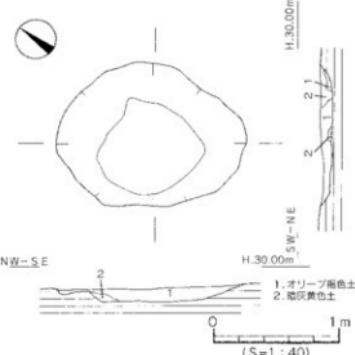
S K 1 (第23図)

調査区北側のB・5区に位置し、S K 2・5を切る。平面形態は梢円形、断面形態は皿状を呈し、基底面はほぼ平坦である。規模は東西1.15m、南北1.53m、深さ11cmを測る。埋土はオリーブ褐色土である。遺物は土師器・須恵器の小片が僅かに出土する。

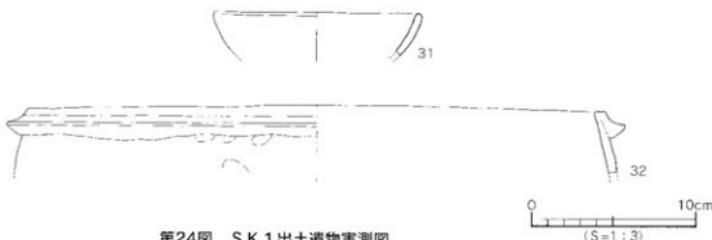
出土遺物 (第24図、図版12)

31は壺である。内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。32は土釜の口縁部である。内湾する口縁部に下彫れの断面三角形状の貼付凸帯が巡る。

時期：出土した遺物の特徴から7~8世紀とする。



第23図 S K 1測量図



第24図 SK 1出土遺物実測図

SK 4 (第25図)

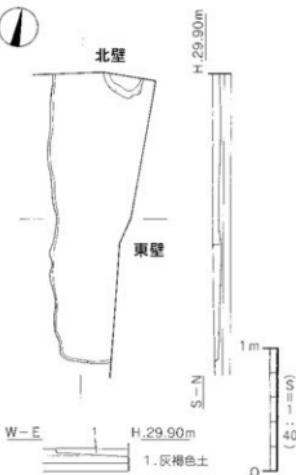
調査区北側のA・6区に位置し、東・北側は調査区外に延びるため全容は不明であるが、平面形態は方形を呈するものと推測する。断面形態は皿状を呈し、基底面はほぼ平坦である。規模は東西0.8m以上、南北2.34m以上、深さ8cmを測る。埋土は灰褐色土である。遺物は土師器の小片が僅かに出土する。

時期：時期決定しうる遺物が乏しく、埋土から中世としか判らない。

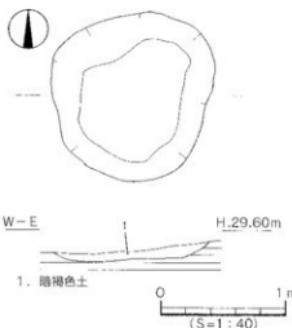
SK 7 (第26図)

調査区北側のC・5区に位置し、SX 2の床面にて検出する。平面形態は楕円形、断面形態はレンズ状を呈し、基底面はほぼ平坦である。規模は東西1.36m、南北1.43m、深さ10cmを測る。埋土は暗褐色土である。遺物は土師器の小片が僅かに出土する。

時期：出土した遺物が小片であり、中世としか判らない。



第25図 SK 4測量図



第26図 SK 7測量図

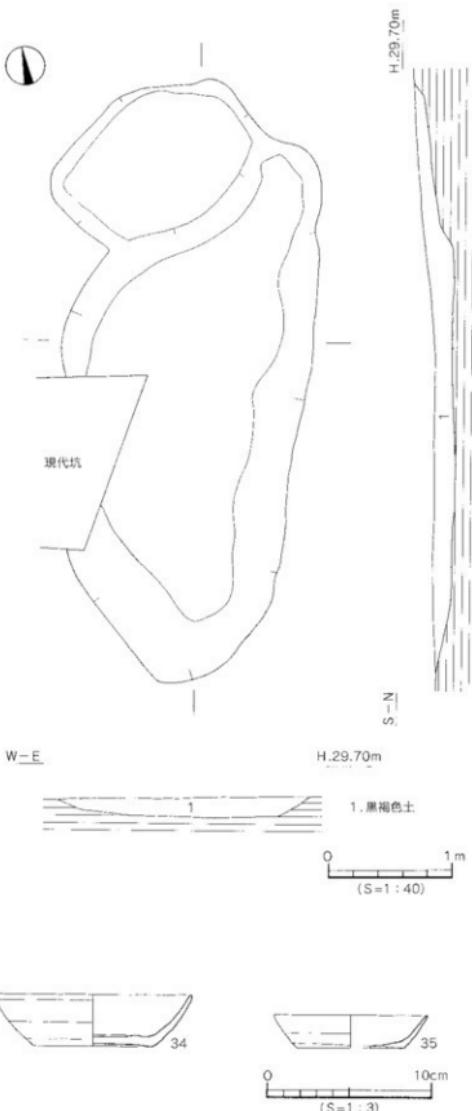
SK11 (第27図)

調査区南側のE～F・5区に位置し、現代坑に切られる。平面形態は不整椭円形、断面形態は皿状を呈し、基底面はほぼ平坦である。規模は東西1.95m以上、南北4.88m、深さ22cmを測る。埋土は黒褐色土である。遺物は土師器の坏身、釜、須恵器のこね鉢片が出土する。

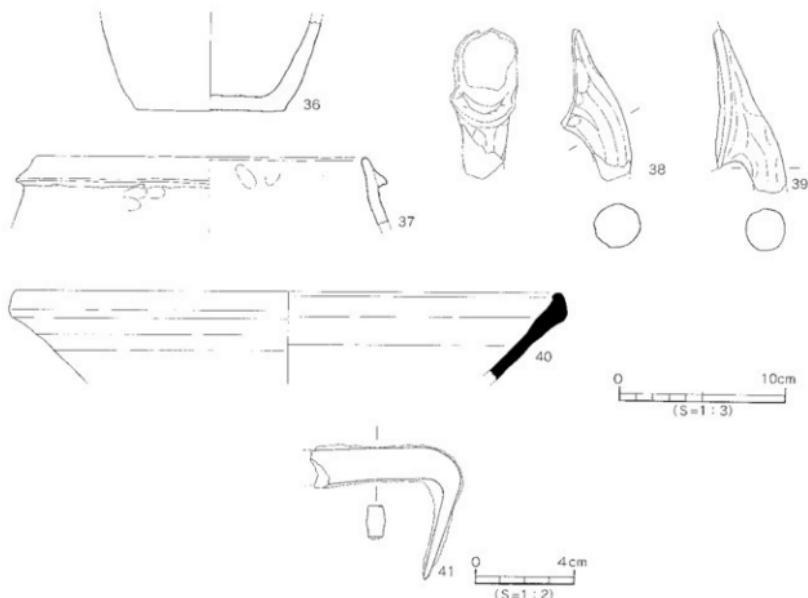
出土遺物 (第27・28図、図版13)

33・34は坏である。ともに平底の底部から外傾して立ち上がる。34は底部に回転糸切り痕が残る。35は皿である。平底に回転糸切り痕が残る。36は鉢の底部である。平底の底部に回転糸切り痕が残る。37～39は上釜である。37は内傾する口縁部に断面三角形状の貼付凸帯が巡る。38・39は断面形態が円形の脚部である。40はこね鉢で、外傾する口縁部の端部は上方にややびる。束縛系。41は鍵である。先端部が「レ」字形に屈曲しており、断面長方形の茎部は欠失している。

時期：出土した遺物の特徴から13～14世紀とする。



第27図 SK11測量図・出土遺物実測図(1)



第28図 SK 11出土遺物実測図(2)

SK 13 (第29図)

調査区中央部のE・4区に位置し、柱穴を切る。平面形態は楕円形、断面形態は逆台形状を呈し、基底面は平坦である。規模は長軸1.77m、短軸1.50m、深さ21cmを測る。埋土は灰褐色土である。遺物は土師器の壺・皿が出土する。

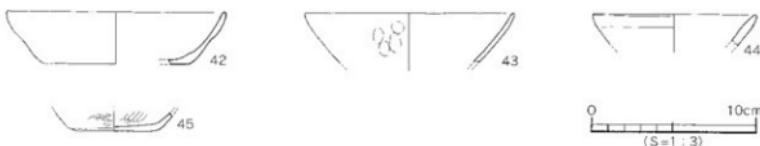
出土遺物 (第30図)

42～45は壺である。42は平底の底部から内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。43は口縁端部がやや内湾する。44は口縁端部が尖り気味である。45は平底の底部内面にミガキ調整が施される。

時期：出土した遺物の特徴から13～14世紀とする。



第29図 SK 13測量図



第30図 SK 13出土遺物実測図

SK 14 (第31図)

調査区西側のD・3区に位置し、SD 1を切る。平面形態は梢円形、断面形態は皿状を呈し、基底面はほぼ平坦である。規模は長軸1.32m、短軸0.7m、深さ7cmを測る。埋土は灰褐色土である。遺物はない。

時期：時期決定しうる遺物に乏しく、埋土から中世としか判らない。

SK 15 (第32図)

調査区東側のD・5区に位置し、SX 2を切る。平面形態は長方形、断面形態は皿状を呈し、基底面は平坦である。規模は長軸1.9m、短軸0.98m、深さ20cmを測る。埋土は灰褐色土である。

遺物はない。

時期：時期決定しうる遺物に乏しく、埋土から中世としか判らない。



第31図 SK 14測量図



第32図 SK 15測量図

SD3 (第33図)

調査区西側のC～E・3区に位置し、SD2を切る。主軸は南北方向を指向し、断面形態は皿状を呈する。検出長7.48m、上場幅0.26～0.53m、深さ1～13cmを測る。溝床は北から南に7.2cmの比高差を測る。埋土は灰褐色土の単一層の堆積である。遺物は土築器の小片が僅かに出土する。

時期：時期決定しうる遺物に乏しく、埋土から中世としか判らない。

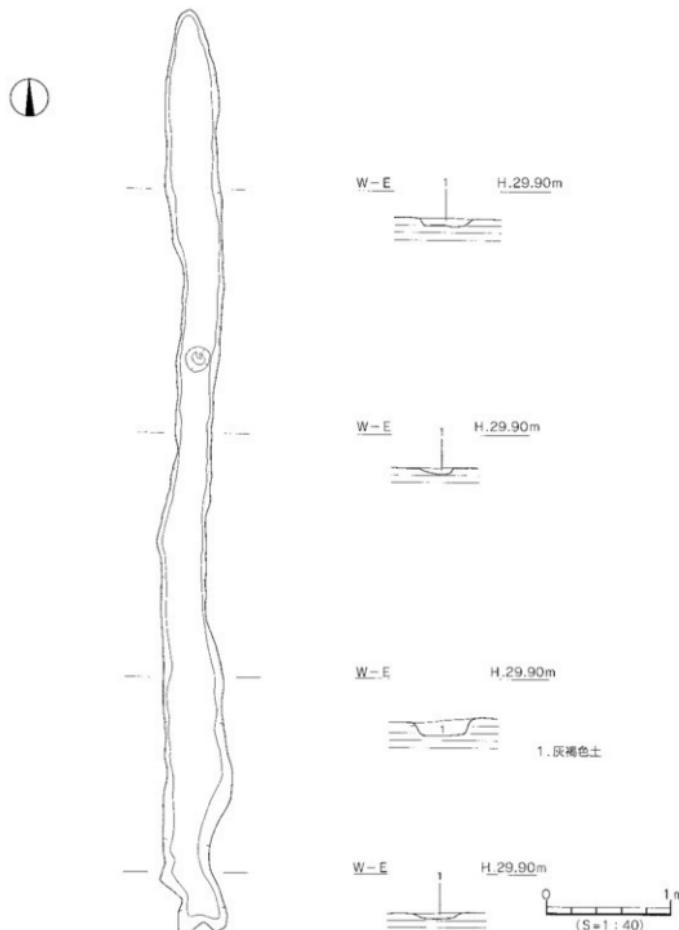


図33図 SD3測量図

3) 性格不明造構

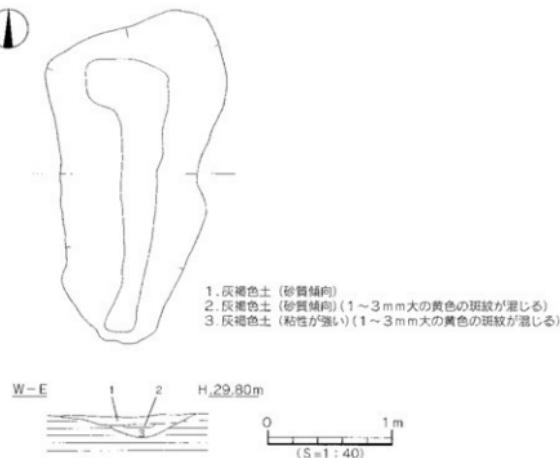
S X 1 (第34図)

調査区中央部E・5区内に位置する。平面形態は不整形、断面形態はレンズ状を呈する。規模は長軸2.74m、短軸1.43m、深さ18cmを測る。埋土は灰褐色土である。遺物は須恵器片に混じり、土師器の壺・皿・釜、瓦質の釜が出土する。

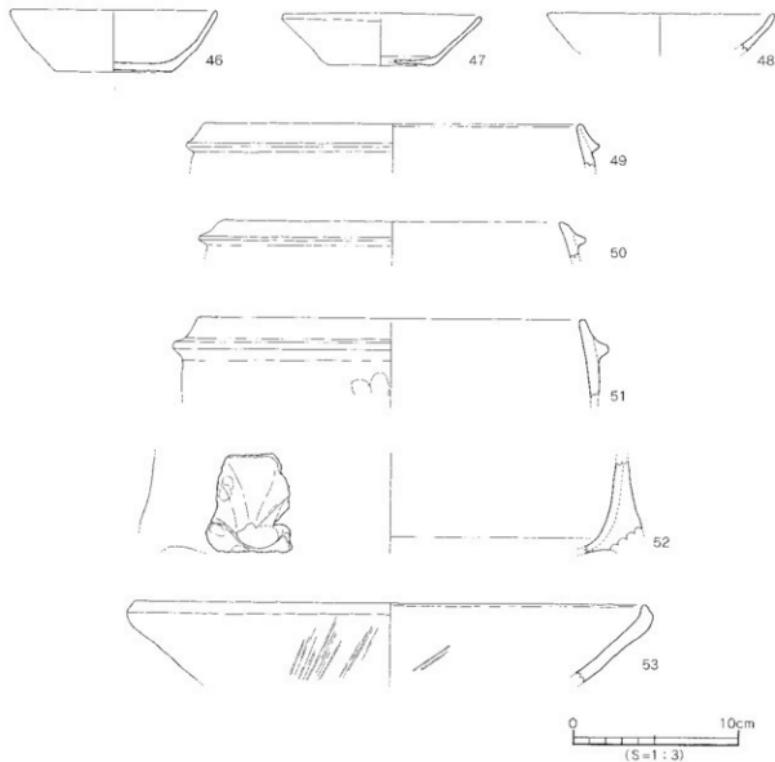
出土遺物 (第35図、図版13)

46~48は壺である。46は底部に回転糸切り後の板压痕が残る。47は平底の底部から外傾して立ち上かる。48は内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。49~52は土釜である。49は口縁部に断面下彫れの三角形状の凸帯が巡る。50は口縁部に断面台形状の貼付凸帯が巡る。51は口縁端部よりやや下方に断面台形状の貼付凸帯が巡り、口縁端部は平らな面をなす。52は底部端に脚が貼り付く。53は鉢である。外反する口縁部の端部は上方にややのびる。

時期：出土した遺物の特徴から13~14世紀代とする。



第34図 S X 1測量図



第35図 SX1出土遺物実測図

SX2 (第36図)

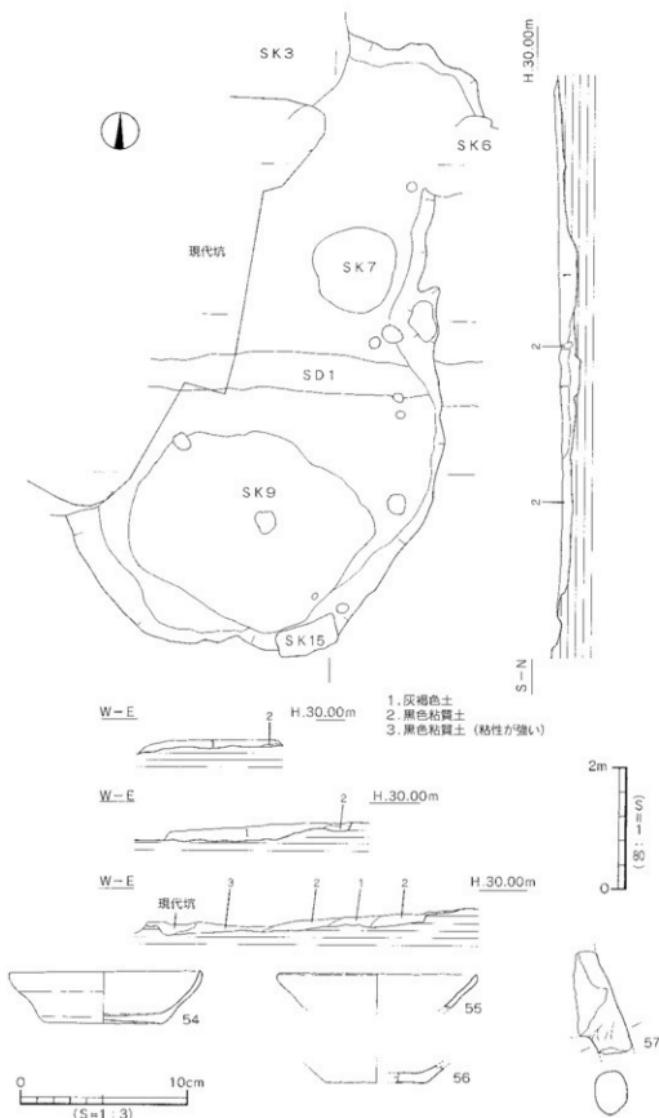
調査区北側のB～D・4～6区に位置する。SD1を切り、SK3・6・15・現代坑に切られ全容は不明であるが、平面形態は不整梢円形を呈するものと推測する。断面形態は皿状を呈する。規模は長軸10.42m、短軸4.5m、深さ30cmを測る。埋土は灰褐色土である。遺物は基底面より浮いた状態で須恵器片に混じり土削型の環・皿・釜が出土する。

出土遺物 (第36図、図版13)

54～56は壺である。半底の底部は回転糸切り後の板状痕が残る。55は外反する口縁部をもつ。56は平底の底部より外傾して立ち上がる。57は上釜の脚部で、断面形が梢円形の脚部である。

時期：出土した遺物の特徴から13～14世紀代とする。

調査の概要



第36図 S X 2測量図・出土遺物実測図

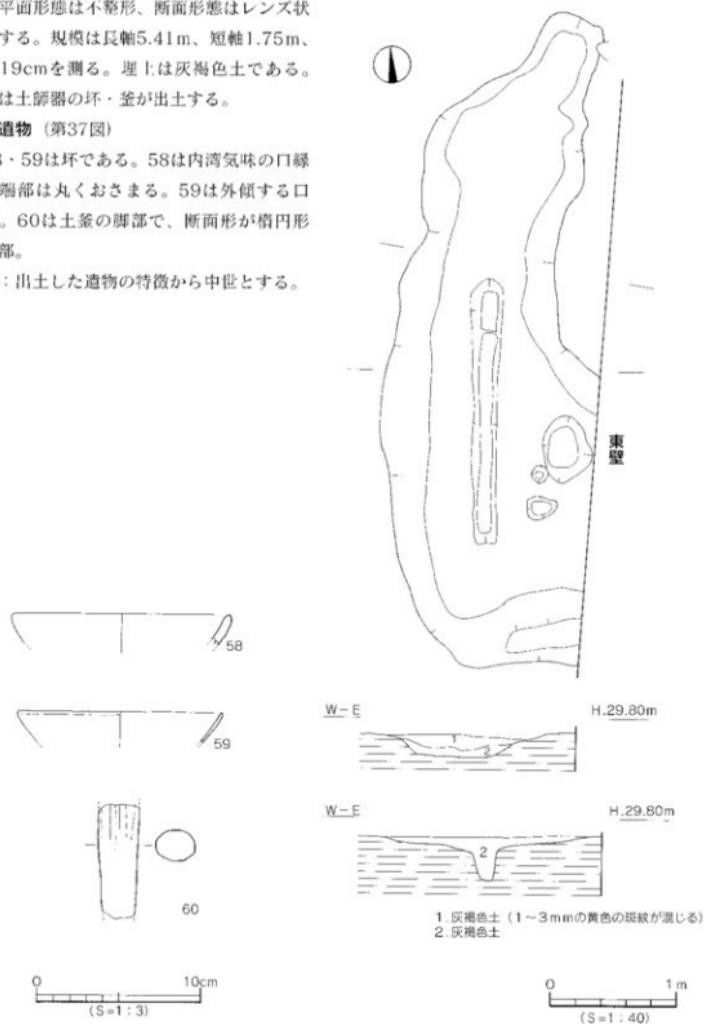
S X 3 (第37図)

調査区南東部D～F・5～6区に位置する。平面形態は不整形、断面形態はレンズ状を呈する。規模は長軸5.41m、短軸1.75m、深さ19cmを測る。埋土は灰褐色土である。遺物は土器の壺・釜が出土する。

出土遺物 (第37図)

58・59は壺である。58は内湾気味の口縁部に端部は丸くおさまる。59は外傾する口縁部。60は土釜の脚部で、断面形が橢円形の脚部。

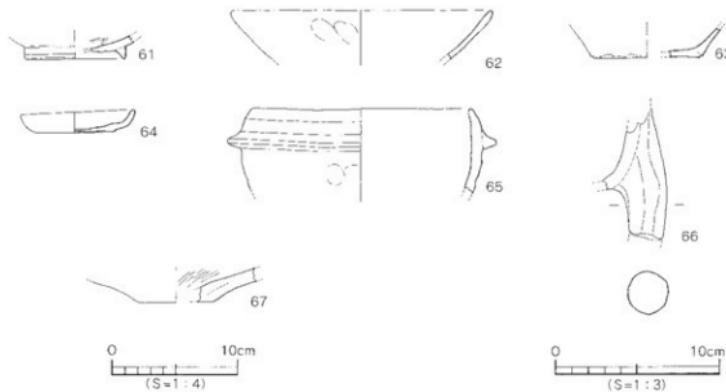
時期：出土した遺物の特徴から中世とする。



第37図 S X 3測量図・出土遺物実測図

柱穴出土遺物（第38図、図版13・14）

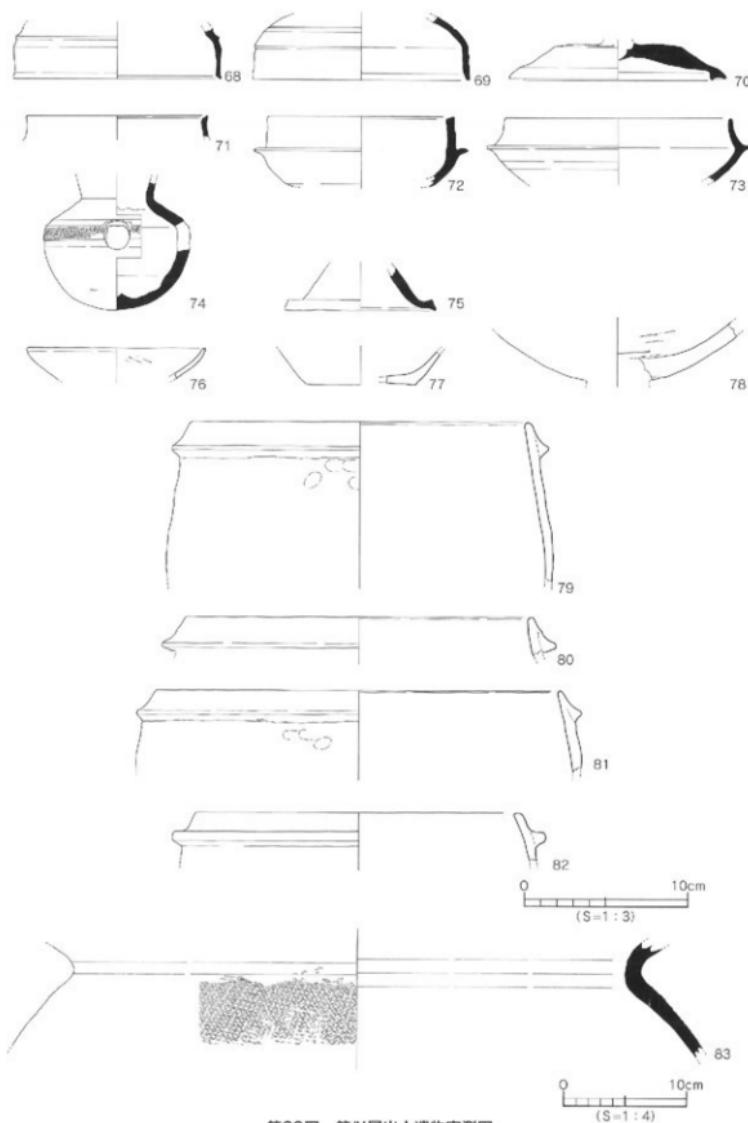
61・62は楕である。61は底部に断面三角形状の貼付高台をもつ。62は口縁端部は丸くおさまる。63は坏で、平底の底部より外傾して立ち上がる。64は皿である。平底の底部より内湾して立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。65・66は土釜である。65は内湾して立ち上がり、口縁端部よりやや下方に断面台形状の貼付凸帯が巡る。66は底部縁に断面円形の脚が貼り付く。67は壺の底部で、平底の底部より大きく外反して立ち上がる。内面にハケ、外面にナデがある。



第38図 柱穴出土遺物実測図

第IV層出土遺物（第39図、図版14）

68~70は蓋坏である。68は天井部と口縁部の境に稜をもち、口縁端部に内傾する面をなす。69は坏蓋である。天井部と口縁部の境に稜をもつ。70は天井部は平らで、口縁端部よりやや下方にのびるかえりをもつ。71~73は坏身である。71は口縁端部に段を有する。73は水平に受部を持つ。74は壺である。上胴部に円孔と波状文、その下に凹線が施される。75は高坏の脚部である。大きく外反する脚縫端部は下方に肥厚される。76・77は坏である。76は口縁端部付近がやや内湾する。77は底部に回転糸切り後の板压痕が残る。78は高坏である。79~82は土釜である。79~81は口縁部に断面下膨れの三角形状の貼付凸帯が巡る。82は口縁端部より下方に断面台形状の貼付凸帯が巡り、口縁端部は平らな面をなす。83は甌である。内湾する胴部内面にナデ、外面にタタキが施される。亀山焼。



第39図 第IV層出土遺物実測図

4区の調査

第V層上面にて溝2条、柱穴1基を検出した。

1) 溝

SD5 (第40図)

調査区北側のB・11区に位置し、東西端は調査区外に延びる。主軸は東西方向を指向し、断面形態は皿状を呈する。規模は検出長0.78m、上場幅2.04~2.25m、深さ9~15cmを測る。埋土は黒褐色土である。遺物は須恵器の坏身・高环・壺が出土する。

出土遺物 (第40図)

84は壺の口縁部である。外傾する口縁部の端部付近は肥厚される。85は坏身である。やや外上方にのびる受部はやや凹む。86は高环の脚部である。大きく外反する脚部の端部は下方にのびる。

時期：出土した遺物の特徴から7~8世紀代とする。

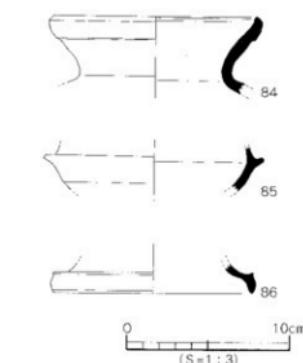
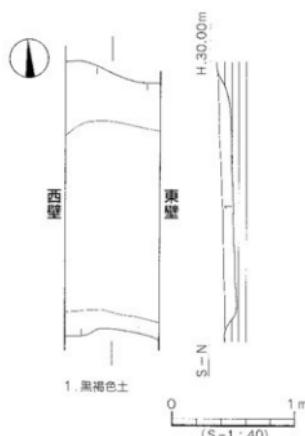
SD6 (第41図)

調査区南側のD・11区に位置し、東西端は調査区外に延びる。主軸は東西方向を指向し、断面形態はレンズ状を呈する。規模は検出長0.94m、上場幅0.92~0.97m、深さ2~8cmを測る。埋土は黒褐色土である。遺物は土師器・須恵器の小片が僅かに出土する。

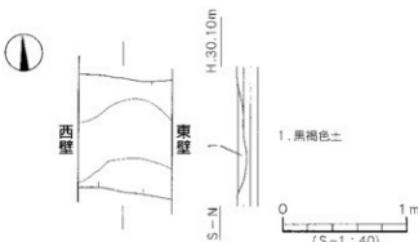
時期：出土した遺物から古墳時代としか判らない。

SP5出土遺物 (第42図、図版14)

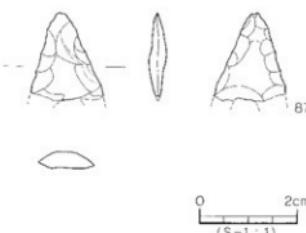
87は凹基式の打製石鏃である。長さ1.8cm、幅1.5cm、厚み0.35cm、重量0.726gを測る。サスカイト製。



第40図 SD5測量図・出土遺物実測図



第41図 SD6測量図



第42図 SP5出土遺物実測図

5区の調査

第V層上面にて溝2条、柱穴3基を検出した。

1) 溝

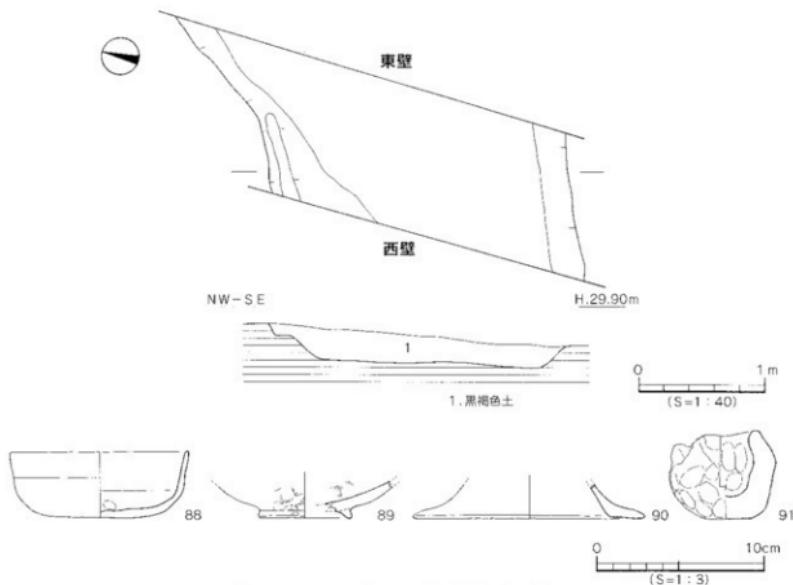
SD7 (第43図)

調査区南側のB・9区に位置し、東西は調査区外に延びる。主軸は北東から南西方向を指向し、断面形態は皿状を呈する。規模は検出長1.24m、上場幅2.62~3.29m、深さ15~37cmを測る。埋土は黒褐色土である。遺物は土師器の坏身・高环・手捏ね土器、須恵器の高环・甌・提瓶、鉄器が出土する。

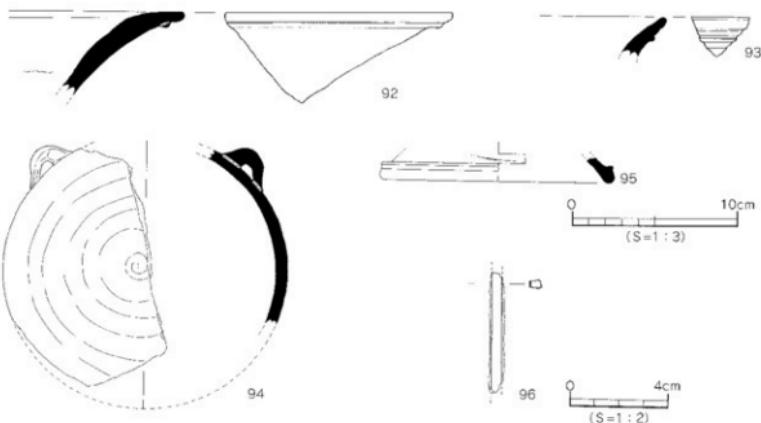
出土遺物 (第43・44図、図版14)

88は坏である。平底で底部端に丸みをもち、外傾気味に立ち上がる。89は椀の底部で、断面三角形状の貼付高台がつく。90は高环の脚部で、裾部は外方にのび端部は丸くおさまる。91は手捏ね土器で断面形が「U」字状を呈し、内外面はナデがある。92・93は甌の口縁部である。92は大きく外反する口縁部の外面に凸帯が1条巡る。93は外反する口縁部の外面に沈線1条と凸帯が1条巡る。94は提瓶である。円形の胴部、肩部に把手がつく。95は高环の脚部で透かしをもつ脚端部は肥厚される。96は釘で上下部が欠失している。直線的に延びており、その断面は長方形である。長さ50mm、幅5mm、厚み3.5mm、重さ2.76gを測る。

時期：出土した遺物の特徴から7世紀代とする。



第43図 SD7測量図・出土遺物実測図(1)



第44図 SD 7出土遺物実測図(2)

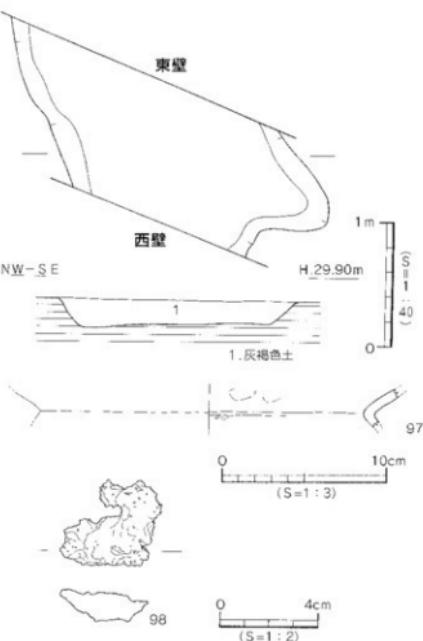
SD 8 (第45図)

調査区南側のC・9区に位置し、東西は調査区外に延びる。主軸は北東から南西方向を指向し、断面形態はレンズ状を呈する。規模 NW-S Eは検出長1.2m、上場幅1.5~2.3m、深さ12~23cmを測る。埋土は灰褐色土である。遺物は須恵器片に混じり、土師器の壺・鉄器が出土する。

出土遺物 (第45図、図版14)

97は壺の口頭部で、「く」字状を呈する。98は鉄滓で長さ4.0cm、幅3.5cm、厚さ1.3cm、重さ16.3gを測る。

時期：出土した遺物の特徴から5~6世紀代とする。



第45図 SD 8測量図・出土遺物実測図

第4章 調査のまとめ

今回の調査では、古墳時代から中世における遺物包含層の堆積と、古墳時代から中世にかけての集落関連遺構や遺物を確認することができ、同時代における北久米地区の集落の一部が明らかとなった。

上 層

北久米遺跡3次調査地は来往台地の微高地上に立地している。現地表面は造成地であり、近現代の農耕に伴う削平や造成時の掘削により包含層や遺構の遺存状況は良くない。遺構検出面である第V層は、僅かに北から南へ傾斜がみられる。また、古墳時代から中世における包含層の堆積を検出している。

古墳時代

SK2・3・5・6・8・9・12、SD1・4・6・8がある。SK8やSK9は削平を受けており全容は不明であるが、形状や規模などから小型の竪穴遺構の可能性をもつ。SD1は屈曲部を伴う溝で、掘り方がしっかりとしており、埋土が單一層で砂層の堆積を含んでいないことから、水利に伴うものではなく、集落内の区画に伴う施設と考えられる。

古墳～古代

SK1・10、SD2・5がある。SD2は、SD1より新しい段階の溝であるが、この溝も埋土から集落内の区画に伴う溝と考えられる。東西方向を指向するSD5と、やや北東方向から南北方向を指向するSD7は、方向や位置関係などから、同一の溝のつながりと考えられ、古墳時代から継続して本調査地周辺に古代集落が存在していたことが窺える。

中世

SK4・7・11・13・14、SD3がある。SX2は南北に長い不整形の掘り込みであるが、現段階ではどの様な性格をもつ施設か不明である。

SX3は平面形態がL字形の様相を示しており、その基底面に直線的に延びる細くて深い溝を伴っている。この溝は仕切り等の施設とも考えられる。南西に位置する北久米遺跡2次調査地では13～15世紀の区画溝を伴う集落関連遺構が見つかっており、中世集落が調査地周辺に展開されていることが判る。

今後の整理では、福音小学校構内遺跡と北久米淨蓮寺遺跡の両集落との中間地点に存在する本遺跡の役割を解明する必要がある。

〔文献〕

橋本雄一1984「北久米淨蓮寺遺跡－3次調査地－」『松山市埋蔵文化財調査報告書42』松山市教育委員会、(財)松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター

梅木謙一・武正良浩1995「福音小学校構内遺跡－弥生時代編－」『松山市埋蔵文化財調査報告書50』松山市教育委員会、(財)松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター

梅木謙一編1996「福音寺地区の遺跡」『松山市埋蔵文化財調査報告書52』松山市教育委員会、(財)松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター

河野史知編1998「福音寺地区の遺跡II」『松山市埋蔵文化財調査報告書67』松山市教育委員会、(財)松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター

加島次郎1999「乃万の裏遺跡－2次調査地－」『松山市埋蔵文化財調査報告書72』松山市教育委員会、(財)松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター

遺構一覧

遺構・遺物 一凡例一

(1) 以下の表は遺構・遺物の計測値及び観察一覧である。

(2) 遺物観察表の各記載について。

法量欄()：復元推定値

形態・施文欄：土器の各部位名称を略記。

例) 底→底部

胎土・焼成欄：胎土欄では混和剤を略記した。

例) 砂→砂粒、長→長石、石→石英、密→精製土、金→金雲母、チャ→チャート

() 内数値は混和剤粒子の大きさを示す。(単位:mm)

焼成欄の略記について。◎→良好、○→良、△→不良。

表1 溝一覧

溝(SD)	地 区	断面形	規 模(m) 長さ×幅×深さ	方 向	埋 土	出土遺物	時 期	備 考
1	C～F・3～6	逆V形状	22.40+α×0.37～1.65×0.07～0.42	北東～南西	黒褐色土	土師器 瓶 壺 忠 器	7C前半	現代坑に切られる。SK14-S×2・SD2に切られる。 調査区外に延びる。
2	D・3～6	皿 状	15.75+α×0.37～0.75×0.02～0.21	東～西	黒褐色土	土師器 瓶 壺 忠 器	7～8C	SD1・3に切られる。 SK12に切れる。 調査区外に延びる。
3	C～E・3	皿 状	7.48×0.26～0.53×0.01～0.13	南～北	灰褐色土	土師器	中世	SD2を切る。
4	F・4	レンズ状	0.76-α×0.26～0.32×0.04～0.07	東～西	黒褐色土	土師器	古 墓	現代坑に切られる。 SK2を切る。 調査区外に延びる。
5	B・11	皿 状	0.78-α×2.04～2.25×0.09～0.15	東～西	黒褐色土	忠 器	7～8C	調査区外に延びる。
6	D・11	レンズ状	0.94+α×0.92～0.97×0.02～0.08	東～西	黒褐色土	土師器 組 忠 器	古 墓	調査区外に延びる。
7	B・9	皿 状	1.24+α×2.62～3.29×0.15～0.37	北東～東西	黒褐色土	土師器 壺 忠 器	7 C	調査区外に延びる。
8	C・9	レンズ状	1.20+α×1.50～2.33×0.12～0.23	北東～南西	灰褐色土	土師器 壺 忠 器	5～6C	調査区外に延びる。

表2 土坑一覧

土坑(SK)	地区	平面形	断面形	規 模(m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	床面積 (m ²)	埋 土	出土遺物	時 期	備 考
1	B・5	椭円形	皿 状	1.53×1.15×0.11	5.47	オリーブ 褐色土	土師器 壺 忠 器	7～8C	SK2・5を切る。
2	A-B-5～6	不整 椭円形	皿 状	3.68×2.90+α×0.13	9.48+α	黒 色 土	土師器 壺 忠 器	6C初頭	SK1・5に切られる。 調査区外に延びる。
3	B-4～5	椭円形	皿 状	3.72+α×1.92+α×0.12	6.34+α	黒 色 土	土師器 壺 忠 器	6C中頭	SK5-現代坑に切られる。 SK2を切る。 調査区外に延びる。
4	A・6	方 形	皿 状	2.34+α×0.80+α×0.08	1.46+α	灰褐色土	土師器	中世	調査区外に延びる。
5	B・5	椭円形	皿 状	1.05×0.79×0.07	0.64+α	黒褐色土	土師器	古 墓	SK1に切られる。 SK2・3を切る。
6	B-C-5～6	椭円形	レンズ状	1.45×1.05+α×0.16	1.17+α	黒 色 土	土師器 壺 忠 器	6C前半	SX2に切られる。
7	C・5	椭円形	レンズ状	1.43×1.36×0.1	1.43	暗褐色土	土師器	中世	SX2の底基面より検出。

土坑一覧

土坑 (SK)	地区	平面形	断面形	規 模(m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	床面積 (m ²)	埋 土	出土遺物	時 期	備 考
8	F・5	扇方形	皿 状	3.62×2.80+α×0.12	6.26+α	灰褐色土	上 鋏 銚 残	古 墳	S K11に切られる。 溝柵区外に延びる。
9	C~D- 4~5	扇方形	皿 状	3.50×3.0×0.17	9.40	灰褐色土	上 鋏 銚 残	6 C 中 墓	S X 2 の底面より検出。
10	E・4	扇方形	皿 状	0.85×0.48×0.15	0.51	暗褐色土	上 鋏 銚 残	古 代 末	S K12を切る。
11	E~F- 5	不 整 椭円形	皿 状	4.88×1.95+α×0.22	8.97+α	灰褐色土	上 鋏 銚 残	13~14 C	現代坑に切られる。 SK 8を切る。
12	E~F- 4~5	不 整 椭円形	逆台状	3.56×1.64+α×0.34	5.79+α	黑色土	土 鋏 銚 残	6 C 晩半	S K10・SD 4・現代坑に 切られる。
13	E・4	椭円形	逆台状	1.77×1.50×0.21	2.08	灰褐色土	土 鋏 器	13~14 C	
14	D・3	椭円形	皿 状	1.32+α×0.70×0.07	0.74+α	灰褐色土	ナ シ 中 世	SD 1を切る。	
15	D・5	長方形	皿 状	1.90×0.98×0.20	0.45+α	灰褐色土	ナ シ 中 世	S X 2を切る。	

表3 性格不明遺構一覧

性格不 明遺構 (SX)	地区	平面形	断面形	規 模(m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	床面積 (m ²)	埋 土	出土遺物	時 期	備 考
1	E・5	不整形	レンズ狀	2.74+α×1.43×0.18	3.88+α	灰褐色土	土 鋏 銚 残	13~14 C	
2	B~D- 4~6	不 整 椭円形	皿 状	10.42×4.50+α×0.30	11.16+α	灰褐色土	土 鋏 器 残	13~14 C	現代坑に切られる。 SK 3・6・15に切られる。 SD 1を切る。
3	D~F- 5~6	小整形	レンズ狀	5.41×1.75+α×0.19	8.49+α	灰褐色土	土 鋏 器	中 世	調査区外に延びる。

表4 2区第IV層出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形 番 ・ 施 文	調 整		(外面) 色調 (内面)	胎 土 成	備 考	図版
				外 面	内 面				
1	甌	残高 3.3	上部に凹縫が1条ある。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰オリーブ色 灰白色	胎	○	

表5 3区SK2出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形 番 ・ 施 文	調 整		(外面) 色調 (内面)	胎 土 成	備 考	図版
				外 面	内 面				
2	甌	口径 (19.0) 残高 4.4	「く」字状の口縁部。	ヨコナデ	ヨコナデ	橙色 にぶい黄褐色	石・長(1) ○		
3	甌	口径 (25.1) 残高 3.2	外反する口縁部に端面は平らな面 をなす。	ヨコナデ マメツ	ヨコナデ マメツ	橙色・明褐色 橙色	石・長(1) ○	黒斑	
4	环盖	残高 3.1	丸みをもつ天井部と、口縁部の境 に優美もち、口縁部は盛下する。	回転ヘラケズリ ナダ 回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	石(1~2) ○		
5	环身	口径 (11.0) 残高 3.15	受部に凹みをもち、口縁部に段 を有する。	回転ナデ 回転ヘラケズリ →ナダ	回転ナデ	灰色 灰色	南 長(1) ○		
6	环身	残高 2.0	受部がやや凹み、立ち上がりは内 傾する。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	胎 ○		

遺物観察表

表6 3区SK3出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎 焼	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
7	环蓋	口径(13.4) 残高 4.95	天井部と口縁部の境に縦やかな棱をなす。	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 石(1~3) △			12
8	环身	口径(11.1) 残高 2.3	外上方にのびる受部に、内傾する立ち上がりをもつ。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	粗粒 ○			

表7 3区SK6出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎 焼	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
9	坏巻	残高 2.7	半らな天井部は、口縁部との境に凹転ヘラケズリ 接をもち、口縁部は垂下する。	凹転ナデ ナデ	凹転ナデ ナデ	青灰色 青灰色	石(1~2) 長(1) ○			

表8 3区SK9出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎 焼	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
10	环身	残高 4.9	外方にのびる受部に、立ち上がりは内傾する。	回転ナデ 内転ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	灰色 灰色	石(1) ○			
11	高环	底径(9.7) 残高 2.2	脚部は台形状に肥厚される。	凹転ナデ	凹転ナデ	暗灰色 灰色	長(1~3) ○			
12	裏	口径(41.3) 残高 6.9	外反する口縁部外面に2条の凹線とその上に波状紋が2段施される。	凹転ナデ	凹転ナデ	灰色 灰色	密 ○	自然輪	12	

表9 3区SK12出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎 焼	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
13	裏	口径(19.6) 残高 6.1	「く」字状の口縁部の外側上部に不揃いな刺突文が施される。	ヨコナデ ハケ(±6本)(x)	ヨコナデ ハケ マツツ	褐色 褐色・赤褐色	石・長(1~3) チャ ○			
14	裏	口径(17.9) 残高 3.7	外傾する口縁部の端部は丸くおさまる。	マツツ	マツツ	灰褐色 茶褐色	G・長(1) ○	原形		
15	底	残高 6.2	外上方にのびる把手。	ナデ マツツ	ナデ	にぶい赤褐色 赤褐色	石・長(1) ○		12	
16	坏巻	口径(14.6) 残高 4.9	やや丸味をもつ天井部と、口縁部の境に棱をもち、口縁部は垂下する。	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰黄色	粗粒 ○			12
17	环身	口径(11.0) 残高 2.9	受部は外上方にのび、口縁部に段を有する。	凹転ナデ	凹転ナデ	青灰色 青灰色	石(1) ○			
18	环身	口径(11.9) 残高 4.15	立ち上がりはやや内傾し、口縁端部内面に沈線が逃る。	回転ナデ 内転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○			
19	环身	口径(12.2) 残高 3.45	立ち上がりはやや内傾し、口縁端部は内傾する曲をなす。	回転ナデ 内転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 長(3) ○			
20	环身	口径(10.5) 残高 5.2	水平にのびる受部から、内傾する立ち上がりをもち、端部は丸くおさまる。内面の底部にヘラ記号状の線刻。	回転ナデ 内転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) ○			

遺物観察表

表10 3区S D 1 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外面) 色調 (内面)	胎焼	土成	備考	図版
				外面	内面					
21	环盖	口径 7.65 高さ 1.9 底高 3.25	大井部につまみを有し、口縁部内側のかえりが複数する。	ナデ 回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	灰褐色 黄褐色	密・長(1) ○	自然釉	12	
22	环盖	口径 (12.4) 残高 1.15	低く平らな大井部に、口縁端部と内面のかえりが複数する。	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	灰褐色 灰色	細粒 ○			
23	环身	残高 3.4	外上方にのびる受部は凹む。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	暗灰色 暗灰色	密 ○			
24	环身	残高 3.6	外上方にのびる受部は緩やかに凹み、立ち上がりは内傾する。	回転ナデ 回転ヘラケズリ ナデ	回転ナデ ナデ	灰褐色 灰褐色	密 ○			
25	高坏	残高 6.3	外傾する脚部。	ナデ マメツ	ナデ マメツ	灰白色 灰白色	石(2) △			
26	越	残高 2.7	上脚部に円孔がみられ、肩部に回転が一走る。	回転ナデ	回転ナデ	灰褐色 暗灰色 灰色	密 ○	自然釉		
27	瓶	口径 (25.7) 残高 7.65	緩やかに外反する脚部に、大きく外反する口縁部をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	灰オリーブ色 灰オリーブ色	密 ○			

表11 3区S D 2 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外面) 色調 (内面)	胎焼	土成	備考	図版
				外面	内面					
28	高坏	残高 4.6	脚上部内面にケズリがみられる。	マメツ	マメツ ケズリ	淡灰褐色 淡灰褐色	石・長(1) 金 ○			
29	高坏	口径 (9.0) 残高 4.35	脚部に3方向の透かし。	回転ナデ カキ目	回転ナデ	灰褐色 灰褐色	密 ○	自然釉		

表12 3区S K 10 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外面) 色調 (内面)	胎焼	土成	備考	図版
				外面	内面					
30	环	口径 (14.9) 残高 4.75 底径 6.3	円盤高台の底部に回転系切り戻がみられる。	回転ナデ	回転ナデ	乳褐色 乳褐色	石・長(1) 金 ○			12

表13 3区S K 1 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外面) 色調 (内面)	胎焼	土成	備考	図版
				外面	内面					
31	环	口径 (12.2) 残高 2.6	内凹気味に立ち上がり、口縁部は丸くおさまる。	ナデ	ナデ	乳褐色 乳褐色	砂 ○			
32	土器	口径 (33.6) 残高 4.1	内凹の口縁部に、下彫れの断面形が三角形状の貼付凸巣が造る。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	黑色 灰褐色	石・長(1~4) ○			12

表14 3区S K 11 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外面) 色調 (内面)	胎焼	土成	備考	図版
				外面	内面					
33	环	口径 (11.2) 残高 3.9 底径 (6.0)	平底の底部から外傾して立ち上がる。	ヨコナデ マメツ	ヨコナデ	浅黄褐色 浅黄褐色	細粒 ○			

遺物観察表

(2)

3区SK11出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 燒	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
34	坏	口径 器高 底径 (11.7) 3.15 7.0	やや上げ底気味の底部から外傾して立ち上がる。	ヨコナデ ⑩回転糸切り	ヨコナデ ナデ	灰黄褐色 灰白色	密 ○			
35	皿	口径 器高 底径 (9.3) 2.0 (6.5)	平底の底部から外傾して立ち上がる。	ヨコナデ ⑩回転糸切り	ヨコナデ	灰黄褐色 黄灰色	細粒 ○		保付番	
36	鉢	底径 残高 残高 (8.9) 5.6	平底の底部から内溝気味に立ち上がる。	マメツ ⑩回転糸切り	回転ナデ	暗灰黄色 黄灰色	石(1) ○			
37	土釜	口径 残高 残高 (20.4) 4.2	内傾する口縁部に断面三角形状の貼付凸筋がある。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ →ナデ	にぼい褐色 にぼい褐色	石・長(1~4) ○			
38	上釜	残高 8.5	断面形状が円形の脚部である。	ナデ 脚頭痕	ナデ	灰灰色 灰色	石・長(1~4) ○			
39	土釜	残高 10.05	断面形状が円形の脚部である。	ナデ	ナデ	暗灰色 灰色	石(1~5) ○			
40	こね棒	口径 残高 (32.6) 5.4	外傾する口縁部の端部は上方に肥厚される。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 長(3) ○			13

表15 3区SK11出土遺物観察表（鉄製品）

番号	器種	残存	法 量				備 考	図版
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
41	鍼	約1/3	5.45	6.15	0.7	26.902		13

表16 3区SK13出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 燒	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
42	坏	口径 器高 底径 (13.0) 3.2 (8.7)	平底の底部から内溝気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長(1) ○			
43	坏	口径 残高 (12.4) 3.0	外傾して立ち上がり口縁端部付近がやや内溝する。	ナデ	ナデ	淡灰褐色 淡灰褐色	石・長(1) ○			
44	坏	口径 残高 (9.7) 1.95	外傾する口縁部。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡灰褐色 淡灰褐色	石・長(1~4) ○			
45	坏	底径 残高 (5.3) 1.15	平底の底部から外傾して立ち上がる。	ナデ	ミガキ ナデ	淡褐色 淡褐色	石・長(1) 金 ○			

表17 3区SX1出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 燒	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
46	坏	口径 器高 底径 (12.1) 3.8 6.9	平底の底部は回転糸切り後の板压痕が残り、内溝気味に立ち上がる。	回転ナデ ⑩回転糸切り	マメツ	灰白色 灰白色	石(1~3) 長(1) ○			
47	坏	口径 器高 底径 (11.7) 3.2 6.2	平底の底部から外傾して立ち上がる。	ヨコナデ ナデ ⑩回転糸切り	ヨコナデ ナデ	浅黄色 浅黄色	細粒 ○			
48	坏	口径 残高 (13.6) 2.25	内溝気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石(1) ○			

遺物観察表

3区SX1 出土遺物観察表（土製品）

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外面) 色調 (内面)	胎 焼	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
49	土釜	口径(22.4) 残高2.65	口縁部に下彫れの貼付凸舌が巡る。	ヨコナデ ナダ	ナデ マメツ	灰黄色 灰黄色	石・長(1~4) ○			
50	土釜	口径(20.0) 残高2.2	口縁部に断面形が台形状の貼付凸舌が巡る。	ヨコナデ マメツ	ヨコナデ ナデ	暗灰色 暗灰色	石(1~4) ○			
51	土釜	口径(23.2) 残高4.8	口縁端部より下がった位置に断面形が台形状の貼付凸舌が巡り、口縁部は平らな面をなす。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ	暗灰色 暗灰色	石・長(1~2) ○			13
52	土釜	残高6.0	底部端に脚が貼り付く。	ナデ ナメツ ヨコナデ	マメツ ヨコナデ	褐色 褐色	石・長(1~4) ○	運付着		
53	鉢	口径(30.8) 残高4.8	外反する口縁部の端部は上方にややのびる。	ヨコナデ ナデ ハケ	ナデ	黒灰色 黒灰色	石・長(1) 全 ○			13

表18 3区SX2 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外面) 色調 (内面)	胎 焼	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
54	壺	口径11.35 残高3.25 底径7.0	回転余切り後の板状底をもつ底部から外縁気味に立ち上がり、口縁部付近は内湾する。	マメツ ④回転余切り	マメツ ヨコナデ	浅黄褐色 浅黄褐色	密 ○			13
55	壺	口径(11.8) 残高2.1	外傾する口縁部をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 石(3) ○			
56	壺	底径(6.0) 残高1.1	平底の底部より外傾して立ち上がる。	五輪ナデ ④回転余切り ハケ	五輪ナデ ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	密 ○			
57	土釜	残高6.2	断面形が横円形の脚部である。	ナデ マメツ	ナデ	褐色 褐色	石(1~5) 長(2) ○			

表19 3区SX3 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外面) 色調 (内面)	胎 焼	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
58	壺	口径(13.0) 残高1.9	内凹気味の口縁部に瘤部は丸くおさまる。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	にぶい橙色 黄褐色	密 ○			
59	壺	口径(12.2) 残高1.9	外傾する口縁部。	ヨコナデ →ナデ	ヨコナデ	浅黄褐色 浅黄褐色	粗粒 ○		黒斑	
60	土釜	残高7.0	断面形が横円形の脚部。	ナデ マメツ		にぶい橙色 黄褐色	石(1~4) 長(1~3) ○			

表20 3区柱穴出土遺物観察表（土製品）

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外面) 色調 (内面)	胎 焼	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
61	壺	底径(6.0) 残高1.45	底部に断面形が三角形状の貼付高台をもつ。	ナデ マメツ	ナデ ハケ	乳黃白色 乳黃白色	砂 ○			
62	壺	口径(15.4) 残高3.0	外傾して立ち上がり、口縁部は丸くおさまる。	ナデ	ナデ	乳白色 乳白色	石・長(1) ○			

3区柱穴出土遺物観察表（土製品）

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調 (外側) (内面)	胎 燒	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
63	坏	底径 残高 (6.8) 1.8	平底の底部より外傾して立ち上がる。	回転ナデ ⑤回転糸切り	回転ナデ	淡茶褐色 淡灰茶褐色	石・長(1~3) ○			
64	皿	口径 器高 底径 6.7 1.35 4.7	平底の底部より内溝して立ち上がり、口縁部は丸くおさまる。	回転ナデ ⑥回転糸切り	回転ナデ	灰白色 灰白色	石(1) ○			13
65	十釜	口径 残高 (12.8) 5.15	内溝して立ち上がり、口縁部よりやや下がった位置に断面形が台形状の貼付穴帯が並ぶ。	ナデ	ナデ	黑色 灰色	石・長(1~5) ○		蝶付帯	
66	上釜	残高 7.7	底部縁に断面形が円形の脚が貼り付く。	ナデ	ナデ	淡茶褐色 灰色	石・長(1~6) ○		蝶付帯	14
67	壺	底径 残高 (6.0) 2.75	平底の底部より大きく外反して立ち上がる。	ナデ	ハケ(4本/cm)	にぶい黄褐色 黄褐色	石・長(1~3) 金 ○			

表21 3区第IV層出土遺物観察表（土製品）

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調 (外側) (内面)	胎 燒	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
68	口蓋	口径 残高 (12.6) 3.15	天井部と口縁部の間に棱をもつ、口縁端部は内傾する面をなす。	回転ナデ	マメフ	黒色 灰色	密 ○	自然胎		
69	坏蓋	口径 残高 (13.2) 3.85	丸味をもつた天井部と、垂直に下がる口縁部の境に棱をもつ。	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	灰黄色 灰黄色	透 石(2.5) ○			
70	坏蓋	口径 残高 (11.4) 2.3	天井部は平らで、口縁部よりやや下方にのびるかえりをもつ。	回転ヘラケズリ	回転ナデ	オリーブ灰褐色 灰色	密 ○	自然胎		
71	坏身	口径 残高 (11.0) 1.3	内傾する口縁部の端部は段を有する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○			
72	坏身	口径 残高 (11.3) 4.25	受部は水平方向にのび、やや凹む。立ち上がりが直垂で口縁端部は内傾する面をなす。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	石(1) ○			
73	坏身	口径 残高 (13.7) 3.9	水平方向にのびる受部をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰白色	密 ○			
74	匙	頭径 残高 4.4 7.85	上側部に円孔と波状文、その下に凹部が施される。	回転ナデ ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ○			
75	高坏	底径 残高 (9.2) 2.6	大きく述べる脚部は下方に肥厚される。	ナデ マメフ ヨコナデ	マメフ ナデ	淡黄色 淡黄色	細粒 ○			
76	坏	口径 残高 (10.8) 1.9	外傾する口縁部の端部付近はやや内溝する。	ヨコナデ +ナデ	ヨコナデ	淡黄色 淡黄色	密 ○			
77	坏	底径 残高 (6.8) 2.1	平底の底部は回転糸切り後の板压痕が残る。	マメフ ⑤回転糸切り	ナデ	淡黄色 灰色	密 ○			
78	高坏	残高 3.55	坏底部外面に脚部との接合痕が残る。	マメフ ナデ	ナデ ヨコナデ	にぶい褐色 褐色	石・長(1~2) ○			
79	上釜	口径 残高 (20.4) 9.8	内傾して立ち上がり、口縁部に断面形が下彎れの三角形状の貼付凸帯が並ぶ。	ヨコナデ ナデ 指オサエ	ナデ	黄灰色 黄灰色	石・長(1~2) ○	蝶付帯		
80	十釜	口径 残高 (21.0) 2.4	内傾する口縁部に断面形が下彎れの三角形状の貼付凸帯が並ぶ。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗灰黄色 黄黄色	石・長(1~3) ○	蝶付帯		

遺物観察表

3区第IV層出土遺物観察表（土製品）

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎 焼	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
81	土釜	口径 (24.6) 残高 5.0	内傾する口縁部に、断面が三角形状の貼付凸帯がある。	ヨコナデ ナデ 指サエ	ナデ	黄灰色 黄灰色	石・長(1~2) ○	保付番		
82	土釜	口径 (19.1) 残高 3.0	内傾する口縁部に、邊部よりやや下方方に断面台形状の貼付凸帯が巡る。	ヨコナデ	ナデ	灰色 灰色	石(1~2) 長(1) ○			
83	甕	残高 9.3	内凹する頸部に、外反する腹部をもつ。	ナデ タキ	ナデ	灰褐色 青灰色	石・長(1~2) ○			14

表22 4区SD5出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎 焼	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
84	壺	口径 (12.5) 残高 4.7	外傾する口縁部の邊部付近は肥厚される。	マメツ ヨコナデ	マメツ ヨコナデ	白褐色 白褐色	石・長(1) ○			
85	壺身	残高 2.7	やや上方にのげる受部は、やや凹む。	マメツ	マメツ	乳褐色 乳褐色	密 △			
86	高壺	底径 (12.0) 残高 1.85	大きく外反する脚部の端部は下方にのげる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○			

表23 4区SP5出土遺物観察表（石製品）

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
87	石盤	ほぼ完存	サヌカイト	1.8	1.5	0.35	0.726		14

表24 5区SD7出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎 焼	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
88	壺	口径 (10.6) 基高 4.0 底径 (7.8)	平底で底部縁は丸みをもち、外縁気味に立ち上がる。	マメツ	回転ナデ	乳白色 乳白色	石・長(1~2) ○			
89	壺	底径 (5.4) 残高 2.25	底部に断面形が丸みをおびた三角形状の貼付高台がつく。	ナデ ハケ	ナデ ハケ	乳灰黄色 乳灰灰色	砂 ○	黒底		
90	高壺	底径 (13.8) 残高 2.1	脚部は外方にのび、底部は丸くおさまる。	マメツ	マメツ	暗茶色 橙茶色	密 ○			
91	手捏ね	口径 5.0 基高 5.4 底径 2.9	断面形が「U」字状を呈する。	ナデ	ナデ	橙褐色 橙褐色	石・長(1~2) 金 ○		14	
92	壺	残高 5.2	大きく外反する口縁部の外側に凸帯が一帯高さ。	回転ナデ	回転ナデ	灰オリーブ色 灰黄色	密 ○	自然輪		
93	甕	残高 2.4	外反する口縁部の外面に沈線1条と凸帯1条が巡る。	回転ナデ	回転ナデ	暗緑灰色 暗緑灰色	石・長(1) ○			
94	壺瓶	残高 14.5	円形の胴部の肩部に把手がつく。	回転ナデ 回転ハラケズ	回転ナデ	灰色 青灰色	石(1~2)長(1) 小蝶 ○			14
95	高壺	底径 (13.4) 残高 1.5	内傾して立ち上がる脚部に透かしが施され、底部は肥厚される。	回転ナデ	回転ナデ	明灰色 明灰色	密 ○			

遺物観察表

表25 5区 S D 7 出土遺物観察表 (鉄製品)

番号	器種	残存	法量				備考	図版
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
96	釘	上下部欠損	5.0	0.5	0.35	2.76		14

表26 5区 S D 8 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外面) 色調 (内面)	胎 燒 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
97	甕	残高 1.6	く字状の口縁部。	マメツ	ナデ マメツ	茶色 茶色	石・長(1) 全 ○		

表27 5区 S D 8 出土遺物観察表 (鉄製品)

番号	器種	残存	法量				備考	図版
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
98	鍤 深	完存	4.0	3.5	1.3	16.31		14

写 真 図 版

写真図版データ

1. 遺構は、主な状況については、4×5判や6×7判の白黒ネガフィルム・カラーリバーサルフィルムで撮影し、35mm判で補足している。一部の撮影には高所作業車を使用した。

使用機材：

カメラ	トヨフィールド45A	レンズ	スーパーアンギュロン90mm他
	アサヒペンタックス67		ペンタックス67 55mm他
	ニコンニューFM2		ズームニッコール28~85mm他
フィルム	白 黒 プラスXパン・ネオパンSS・アクロス		
	カラー エクタクロームEPP・RDPⅢ		

2. 遺物は、4×5判で撮影した。すべて白黒フィルムで撮影している。

使用機材：

カメラ	トヨビューア-45G
レンズ	ジンマーS 240mm F5.6他
ストロボ	コメット/CA32・CB2400
スタンド等	トヨ無影撮影台・エイトスタンド101
フィルム	白黒 プラスXパン・ネオパンアクロス

3. 単色図版は、白黒プリントを等倍で使用できるように焼き付けている。

使用機材：

引伸機	ラッキー450MD・90MS
レンズ	エル・ニッコール135mm F5.6A・50mm F2.8N
印画紙	イルフォードマルチグレードIV RCペーパー

4. 製版 写真図版175線

印刷 オフセット印刷

用紙 本文 マットカラー110kg

写真図版 マットカラー135kg

製本 アジロ綴じ

【参考】『埋文写真研究』vol.1~13

『報告書制作ガイド』

〔大西朋子〕



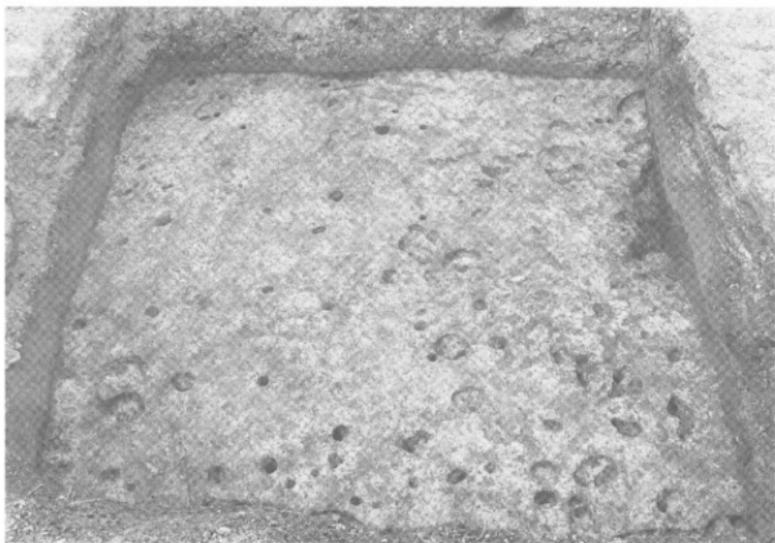
1.調査前風景（南東より）



2.調査地全景（西より）



1.1区検出状況（東より）



2.1区完堀状況（南より）



1.2区検出状況（北より）



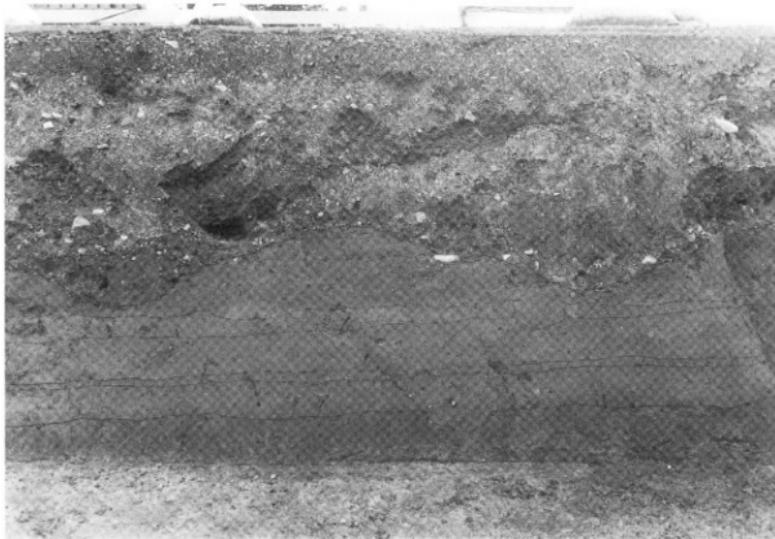
2.2区完堀状況（北より）



1.3区表土掘削状況（北東より）



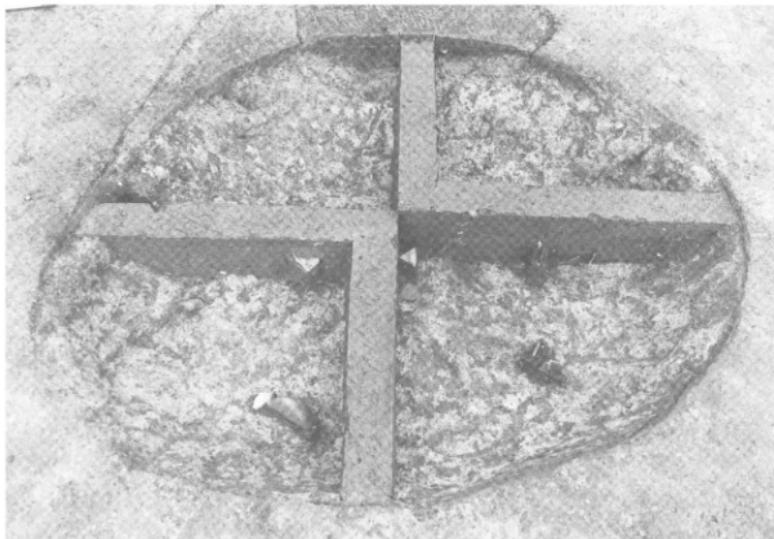
2.3区調査風景（南東より）



1.3区西壁土層（東より）



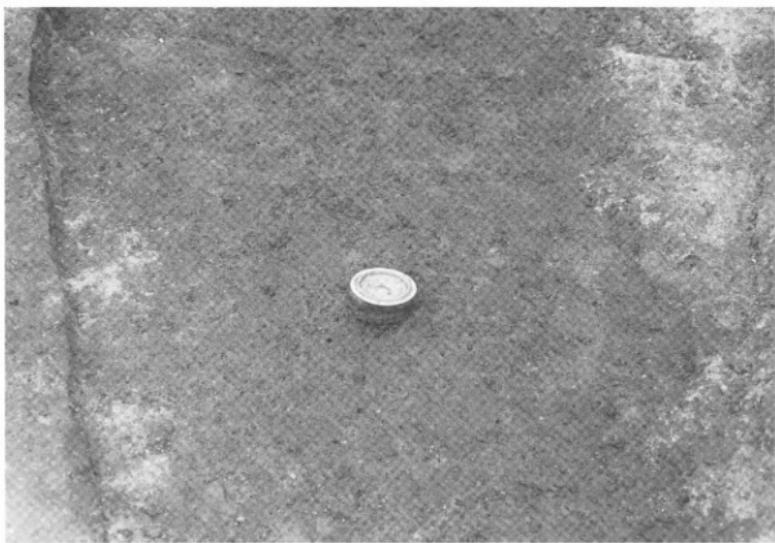
2.3区遺構検出状況（南より）



1.3区SK13ベルト土層・遺物出土状況（南より）



2.3区SD1・SX2ベルト土層（西より）



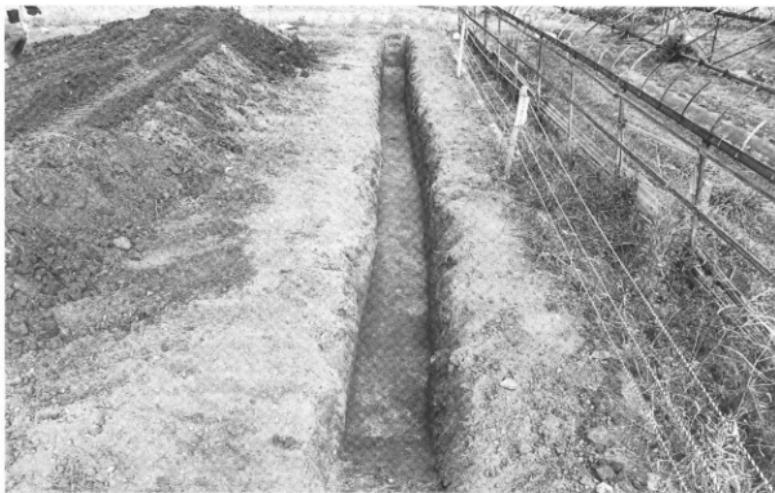
1.3区 S D 1遺物出土状況（北より）



2.3区 S D 1南西端ベルト土層（北東より）



1.3区造構完場状況（北西より）



1.4区遺構露出状況（南より）



2.4区遺構完堀状況（北より）



1.5区遺構検出状況（北東より）



2.5区 S D7遺物出土状況（北より）



1.5区造構完堀状況（北より）



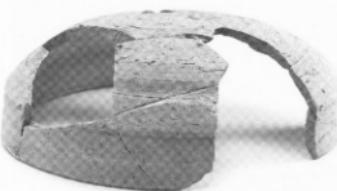
7



12



15



16



21

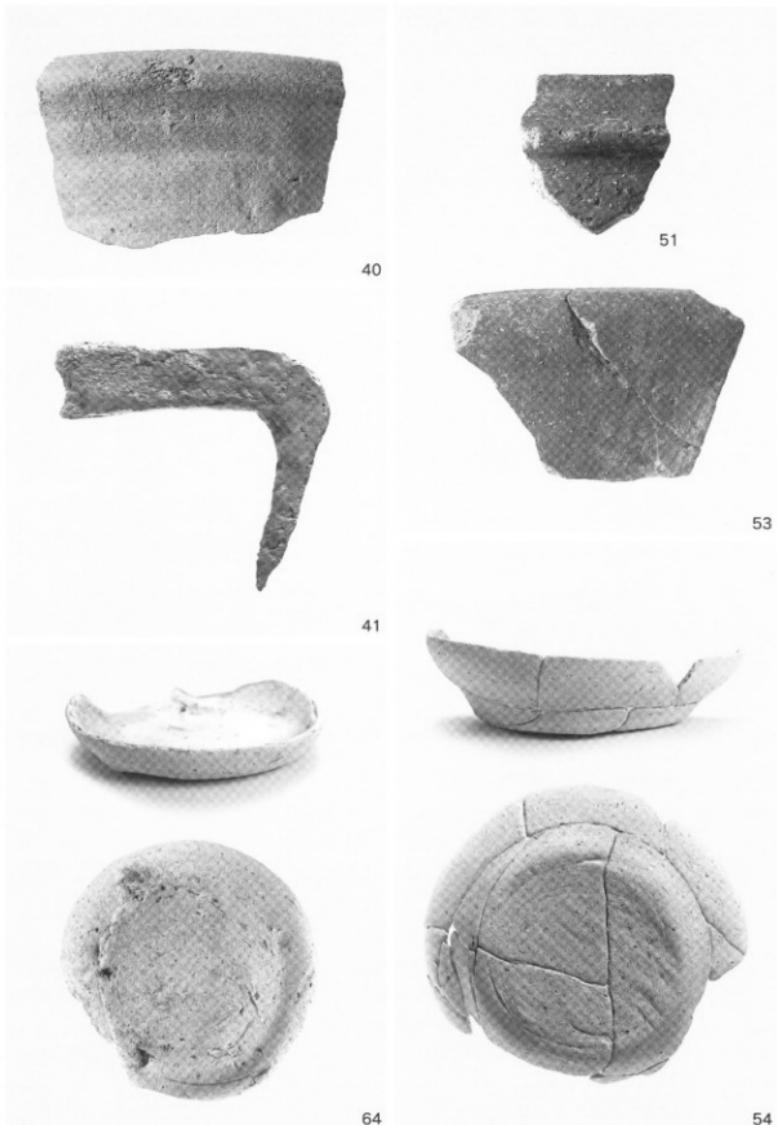


32



30

1.3区: SK3 (7)、SK9 (12)、SK12 (15・16)、SD1 (21)、SK10 (30)、SK1 (32) 出土遺物

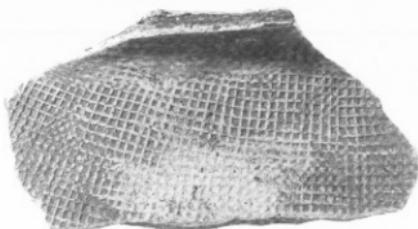


1.3区：SK11(40・41)、SX1(51・53)、SX2(54)、柱穴(64)出土遺物



66

1.3區：柱穴（66）、第IV層（83）出土遺物



83



87

2.4區：S P5出土遺物



91

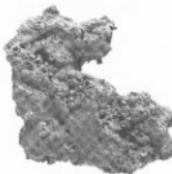


94



96

3.5區：SD7（91·94·96）、SD8（98）出土遺物



98

抄 録

ふりがな	きたくめいせき					
書名	北久木遺跡3次調査					
著者名						
卷次						
シリーズ名	松山市文化財調査報告書					
シリーズ番号	第98集					
編著者名	河野史知・大西朋子					
編集機関	松山市教育委員会・鷺松山市牛込学習振興財團埋文化財センター					
所在地	市教委:〒790-0003 松山市三番町6丁目6-1 TEL089-948-6605 現文:〒791-8032 松山市南新院町乙67-6 TEL089-923-6363					
発行年月日	西暦2004年3月31日					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	北緯 道路番号	東經	調査機関	調査面積 m ²
北久木遺跡 3次調査地	松山市北久木町	38301		33°48'56" 132°47'42"	20031104~ 20031225	2,806m ² のうち 443.83m ²
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
北久木遺跡 3次調査地	集落	古墳 古代 中世	土坑、溝 土坑、溝 土坑、溝	土師器、須恵器 土師器、須恵器 土師器、須恵器、陶器	古墳から中世にかけての集落の一部 検出	

松山市文化財調査報告書 第98集

北久米遺跡

3次調査地

平成16年3月31日 発行

編集 松山市教育委員会

発行 〒790-0003 松山市三番町6丁目6-1

TEL (089) 948-6605

財團法人 松山市生涯学習振興財團

埋蔵文化財センター

〒791-8032 松山市南斎院町乙67番6

TEL (089) 923-6363

印刷 平和印刷工業株式会社

〒790-0921 松山市福音寺町728番地

TEL (089) 947-9155

